

イネ科雑草を防除する。 確かな選択で応える。

イネ科雑草
10葉期まで
使える(大豆)

選択性茎葉処理型除草剤

ワンサイド[®]P 乳剤

大豆畑の「雑草管理」を
発信する情報サイト

Soy Channel



BASF

We create chemistry

はじめに

ワンサイドP乳剤(試験名:SL-236㉔乳剤)は、石原産業(株)が開発したイネ科雑草専用除草剤です。本剤の有効成分フルアジホップPは石原産業(株)独自の製法でフルアジホップ[光学異性体を含むラセミ体(R体とS体の混合物)化合物]の除草活性を示すR体を選択的に合成した除草成分です。本剤はメヒシバ、ノビエおよびエノコログサなどの一年生イネ科雑草や、チガヤ、ススキ、ヨシなどの多年生イネ科雑草を茎葉散布によって防除することができます。また豆類や、イモ類、野菜などの広葉作物に対しては殆ど影響を与えないので、全面茎葉散布が可能です。平成19年より少水量散布の公的機関による効果試験を開始し、大豆、小豆等では従来の1/4の散布水量である25ℓ/10aでの散布が可能となりました。これにより、薬剤散布時の省力化、コスト削減が可能となります。また、使用時期がイネ科雑草10葉期(100mℓ/10a)まで登録拡大となり、これまで以上に使いやすくなりました。

イネ科雑草の防除にワンサイドP乳剤をより活用していただけますように、特長などを本冊子にまとめましたので、ご活用いただければ幸いです。

目次

はじめに	2
特長	3
物理的・化学的性状・安全性	4
殺草メカニズム	5
1. 一年生および多年生イネ科雑草に対する高い除草効果	6
殺草特性	6
ワンサイドP乳剤の効果	7
多年生イネ科雑草に対する効果	8
ヨシへの効果	9
2. 雑草体内に速やかに吸収移行し、除草効果を示す	10
移行性の確認	10
耐雨性	11
3. 広葉作物に対する高い安全性	12
選択性のメカニズム	12
葉茎処理による選択性	13
4. 幅広い使用場面	14
ワンサイドP乳剤の使用基準	14
使用上の注意事項	15
ワンサイドP乳剤の上手な使い方	16
だいでの上手な使い方	18
てんさいでの上手な使い方	19
5. 少水量散布による作業の省力化やコスト削減	20
委託試験結果概要	22

特長

① 一年生および多年生イネ科雑草に対する高い除草効果

本剤はイネ科雑草に茎葉処理することで有効成分が植物全体に移行し、除草活性を示します。一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ除く)のみならず、シバムギ、キシュウスズメノヒエ、チガヤ、ヨシおよびススキ等の多年生イネ科雑草も枯殺することができます。

畑地で発生するイネ科雑草には3葉期から5葉期(一部10葉期)までで、緑地管理分野等ではイネ科雑草の草丈30cm以下で茎葉処理することでイネ科雑草を防除することができます。

② 雑草体内に速やかに吸収移行し、除草効果を示す

本剤の有効成分は主に雑草の茎葉部から速やかに吸収され、雑草体内を移行して生長点および節部の分裂組織に作用します。その後周辺細胞まで壊死することにより、植物全体を枯殺します。

また短時間に吸収されるため、散布液が乾いた後の降雨によって効果が低下する心配はありません。

また、速やかに移行するため、散布翌日に中耕を行っても除草効果を示します。効果発現は緩慢で、完成までに2~3週間程度かかります。

③ 広葉作物に対する高い安全性

本剤は広範囲のイネ科雑草に対して強力に作用しますが、それ以外の植物に対して選択性が明瞭であり、豆類、いも類、野菜等の広葉作物にほとんど影響がありません。したがって、広葉作物の生育期に、全面茎葉散布することで、イネ科雑草を防除することができます。

④ 幅広い使用場面

本剤はだいずやあずき、いんげんまめといった豆類やてんさい、ばれいしょといった各種の広葉作物に対して幅広く使用することができます。また、水田畦畔、かんきつ、緑地管理分野等にも使用することができます。

⑤ 少水量散布による作業の省力化やコスト削減

本剤は一部の作物対象で少水量散布(25ℓ~50ℓ/10a)の登録を取得しました。

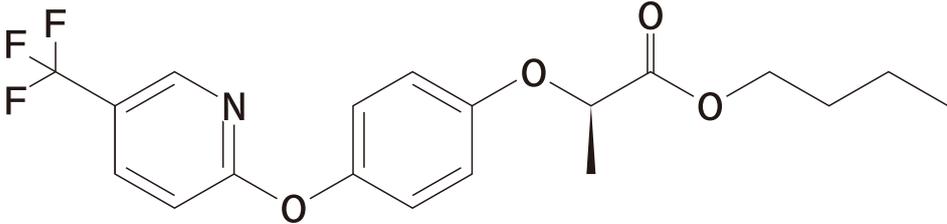
少水量散布の場合、従来の通常水量散布(100ℓ/10a)に比べると、同じ量の散布液で2~4倍の面積に散布することが可能になります。

そのため、散布時間の短縮や、散布液調製回数の削減による作業の省力化やコスト削減が期待できます。



物理的・化学的性状・安全性

●名称および有効成分含有量

製品名	ワンサイドP乳剤
試験名	SL-236 [Ⓛ] 乳剤
有効成分名	フルアジホップP (含有量:17.5%)
化学名	ブチル=(R)-2-{4-(5-トリフルオロメチル-2-ピリジルオキシ)フェノキシ}プロピオナート
分子式	C ₁₉ H ₂₀ F ₃ NO ₄ (分子量:383)
構造式	

●安全性(製剤) ※毒劇物に該当しないものを指している通称

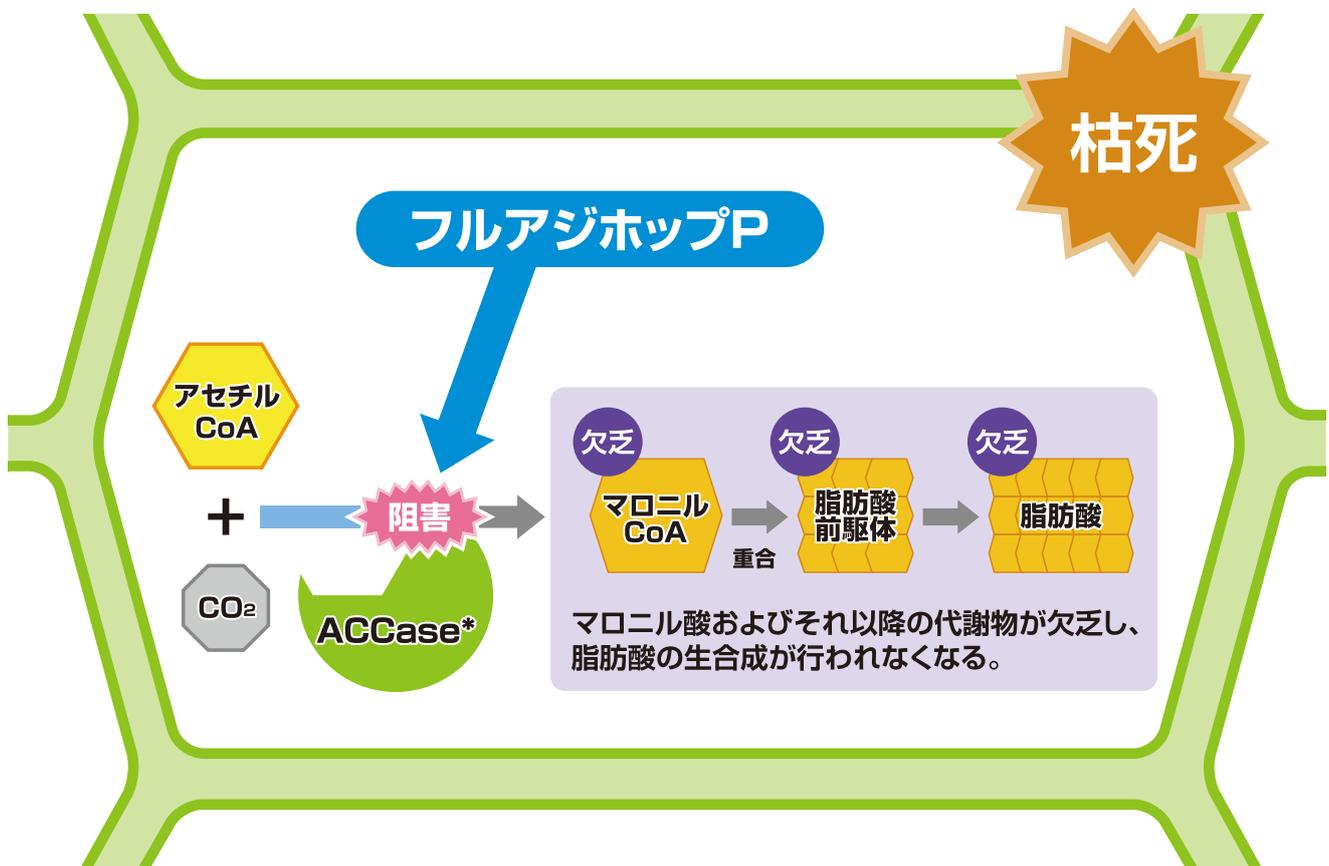
人畜毒性	普通物* 相当	急性経口毒性	ラット LD ₅₀ ♂ >4082 ♀ >3611 (mg/kg)
		急性経皮毒性	ラット LD ₅₀ ♂ ♀ >2000 (mg/kg)
		急性吸入毒性	ラット LC ₅₀ ♂ ♀ >6.06 (mg/ℓ)
眼刺激性(700倍希釈)	ウサギ	軽度の刺激性あり	
皮膚刺激性(700倍希釈)	ウサギ	刺激性なし	
皮膚感作性	モルモット	感作性なし	
水生生物への影響	コイ	LC ₅₀ 5.6(mg/ℓ) [96hr]	
	オオミジンコ	EC ₅₀ 17.0(mg/ℓ) [48hr]	

殺草メカニズム

本剤の有効成分フルアジホップPは茎葉部および根部から容易に吸収され、速やかに体内の生長点および各部の分裂組織に移行し、脂肪酸生合成の開始反応を触媒する酵素「アセチルCoAカルボキシラーゼ」を阻害することにより細胞に必須な脂質の生合成が阻止され、植物は枯死に至ります。

本剤は浸透移行性に優れるため、多年生雑草の地下栄養組織あるいは匍匐茎まで作用し、枯死させることができます。そのため、雑草の再生を抑制することが可能です。

体内への吸収・移行が速やかであるのに対して殺草効果の発現は緩やかです。殺草効果は、初めに草丈の伸長が抑制され、その後は新葉部の退色および萎縮が観察でき、症状が下部に移行します。節位部の生長点にも作用するため、処理後10日～15日で節位部の壊死が確認できます。また旧葉部にはアントシアンが蓄積するため赤紫色に変色する症状が見られます。およそ2～3週間程度で地際まで完全枯死します。



*ACCase=acetyl-CoA carboxylase : アセチルCoAと二酸化炭素の結合を触媒する酵素

1. 一年生および多年生イネ科雑草に対する高い除草効果

●殺草特性

本剤の有効成分フルアジホップPは散布直後から主に茎葉部と一部根部から植物体内に速やかに吸収され、移行することで、生長部分の生育を抑制・停止します。

効果の発現は緩やかで、処理後1週間程度で生長部分の退色や赤色化が観察され、時間の経過とともに植物全体に症状が進行します。

処理後2～3週間程度で完全枯死に至ります。

エノコログサ(ワンサイドP乳剤 100mℓ/10a処理)



薬剤散布前



散布14日後



散布42日後

イヌビエ(ワンサイドP乳剤 100mℓ/10a処理)



薬剤散布前



散布14日後



散布35日後

メヒシバ(ワンサイドP乳剤 100mℓ/10a処理)



薬剤散布前



散布14日後

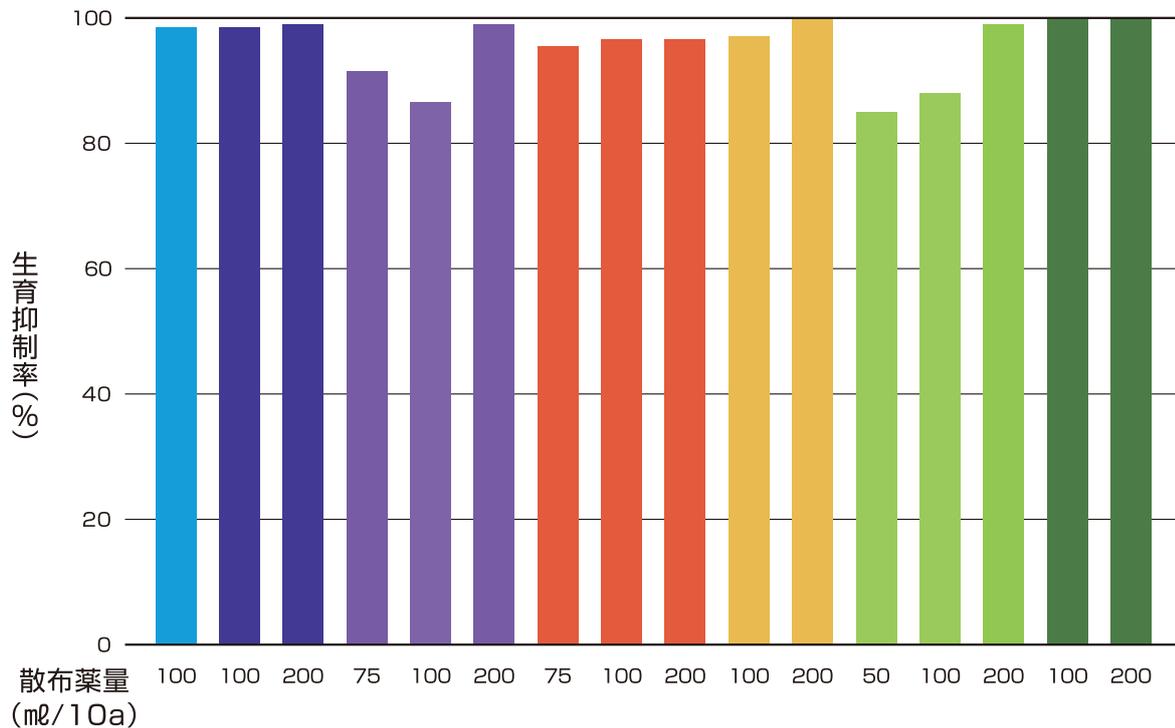


散布35日後

●ワンサイドP乳剤の効果

畑地では主に3葉期から5葉期(一部10葉期)までの一年生イネ科雑草に使用することで、安定した除草効果を示します。また、シバムギ、キシュウスズメノヒエ、チガヤ、ヨシおよびススキ等の多年生イネ科雑草に対しても生育ステージや大きさ等に応じて、適切な薬量を用いることで枯殺することができます。

各種イネ科雑草に対する効果



各種イネ科雑草の処理時の葉齢

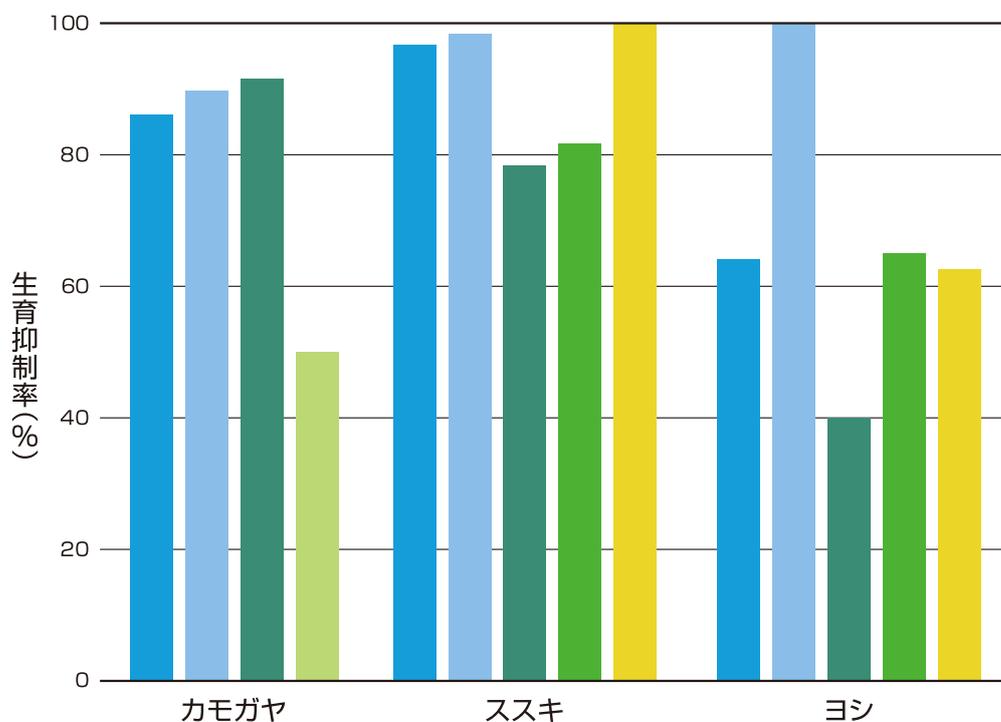
- エノコログサ5葉期
- イヌビエ5葉期
- タイヌビエ8葉期以上
- メヒシバ8葉期以上
- キシュウスズメノヒエ20~30cm
- レッドトップ5葉期
- ジョンソングラス40~60cm

試験概要

試験場所：石原産業株式会社中央研究所
 試験日時：平成21年8月~平成22年2月
 対象草種：上記一年生イネ科雑草(処理35~42日後調査結果)
 キシュウスズメノヒエ(処理70日後調査結果)
 レッドトップ(処理42日後調査結果)
 ジョンソングラス(処理15日後調査結果)
 散布水量：100ℓ/10a

●多年生イネ科雑草に対する効果

本剤の有効成分フルアジホップPは植物への吸収とその後の移行性に優れるため、ヨシ等の大型の多年生イネ科雑草にも高い除草効果を示します。



- ワンサイドP乳剤 100ml/10a
- ワンサイドP乳剤 200ml/10a
- 比較剤A 300ml/10a
- 比較剤B 400ml/10a
- 比較剤C 500ml/10a
- 比較剤D 1000ml/10a

試験概要

試験場所：石原産業株式会社中央研究所
 試験日時：平成21年8月～平成22年2月
 対象草種：カモガヤ7～12葉期(処理35日後調査結果)
 ススキ4～5葉期(処理70日後調査結果)
 ヨシ5葉期(処理70日後調査結果)
 散布水量：100ℓ/10a



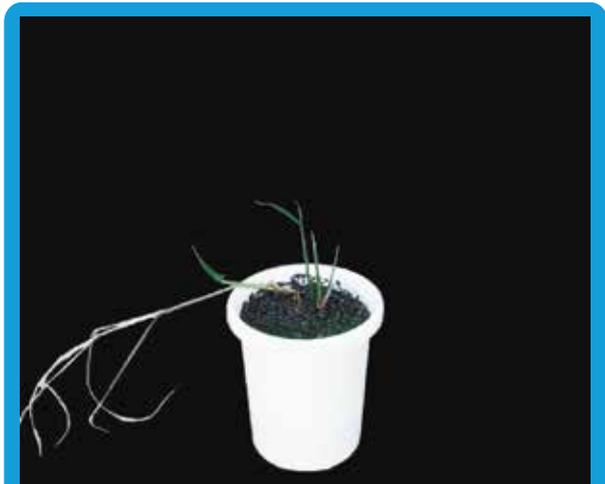
●ヨシへの効果



処理前



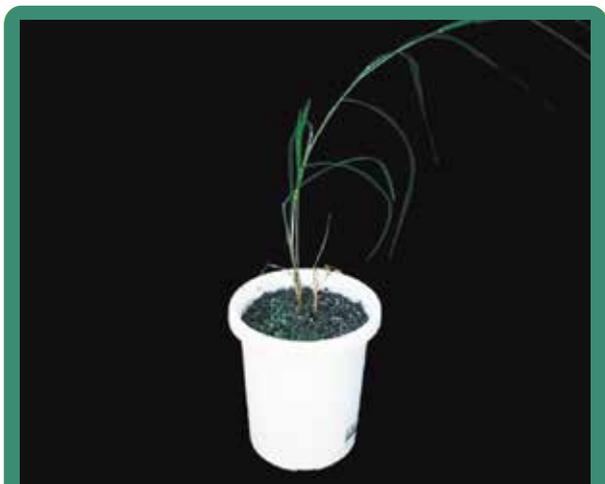
無処理区 70日後



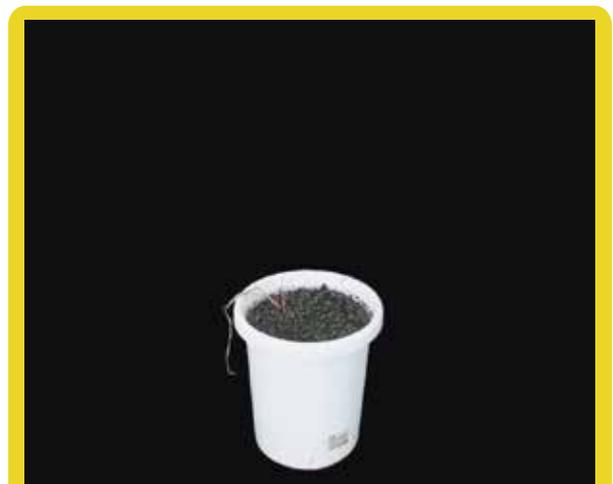
ワンサイドP乳剤(100ml/10a処理) 70日後



ワンサイドP乳剤(200ml/10a処理) 70日後



比較剤A(300ml/10a処理) 70日後



比較剤D(1000ml/10a処理) 70日後

2. 雑草体内に速やかに吸収移行し、除草効果を示す

●移行性の確認

本剤の有効成分フルアジホップPは植物体内で速やかに移行することで雑草の生育を抑制します。

また、薬剤付着部位を散布3時間後に切断しても既に移行した薬剤によって除草効果を示し、全体的に地際まで枯死が進みます。

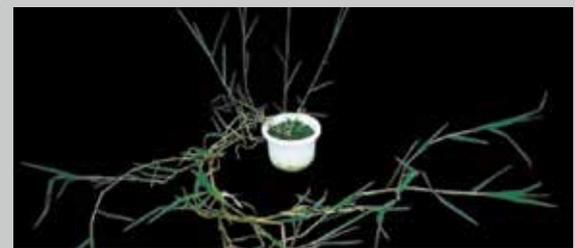
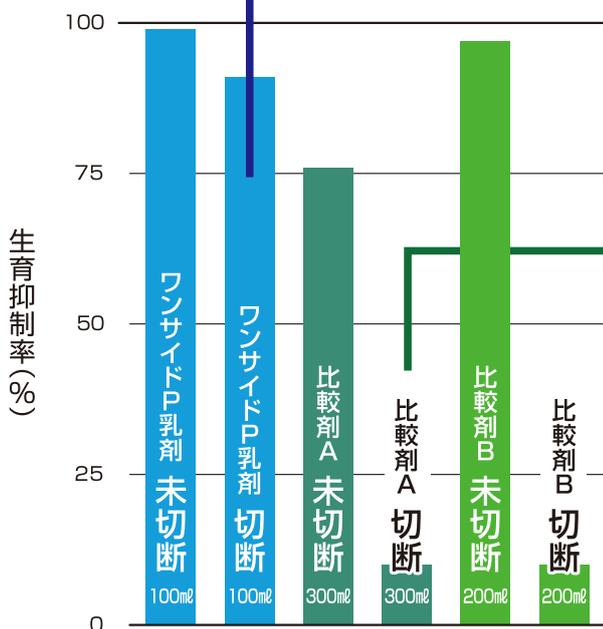
キシュウスズメノヒエに対する効果



ワンサイドP乳剤 処理直後
ワンサイドP乳剤を茎葉部の先端に散布し、
3時間後に散布部位を切断した。



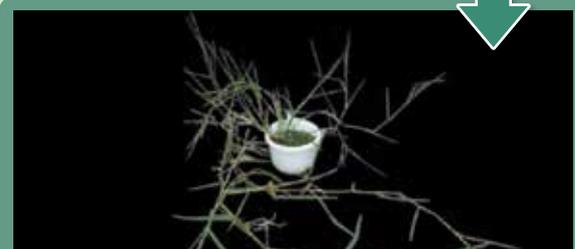
ワンサイドP乳剤 処理14日後
生長点や節部が赤みを帯び、生育が停止した。



無処理区 下より42日後



無処理区 処理日



比較剤A 処理42日後
一時的に生育は停止するが、その後再生した。

試験概要

試験場所：石原産業株式会社中央研究所
試験日時：平成21年12月～平成22年2月
薬剤処理日：平成21年12月25日
調査日：平成22年2月5日(処理42日後)
対象草種：キシュウスズメノヒエ
散布水量：100ℓ/10a
切断時間：薬剤散布3時間後に薬液付着部を切断した。
ワンサイドP乳剤は薬剤散布3時間程度で植物全体に移行し除草効果を示す。



ワンサイドP 乳剤 処理28日後
全体的に赤みを帯び、一部枯死した。

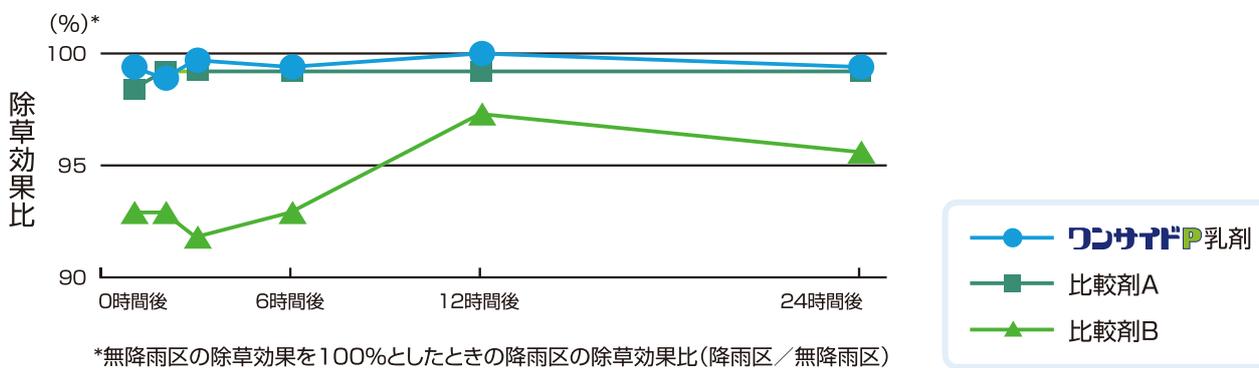


ワンサイドP 乳剤 処理42日後
全体的に地際まで枯死が進む。
再生も確認されなかった。

●耐雨性

本剤は有効成分の吸収・移行が早いいため、散布後の降雨による影響を受け難い薬剤です。石原産業(株)研究所内での試験結果では、ワンサイドP乳剤散布から1時間後の降雨でも除草活性の低下はほとんど見られず、比較剤と比べて同等か勝る耐雨性が確認されています。

イヌビエに対する効果



試験概要

試験場所：石原産業株式会社中央研究所

対象草種：イヌビエ(3~4葉期)

薬剤処理日：平成21年12月17日

散布水量：100ℓ/10a

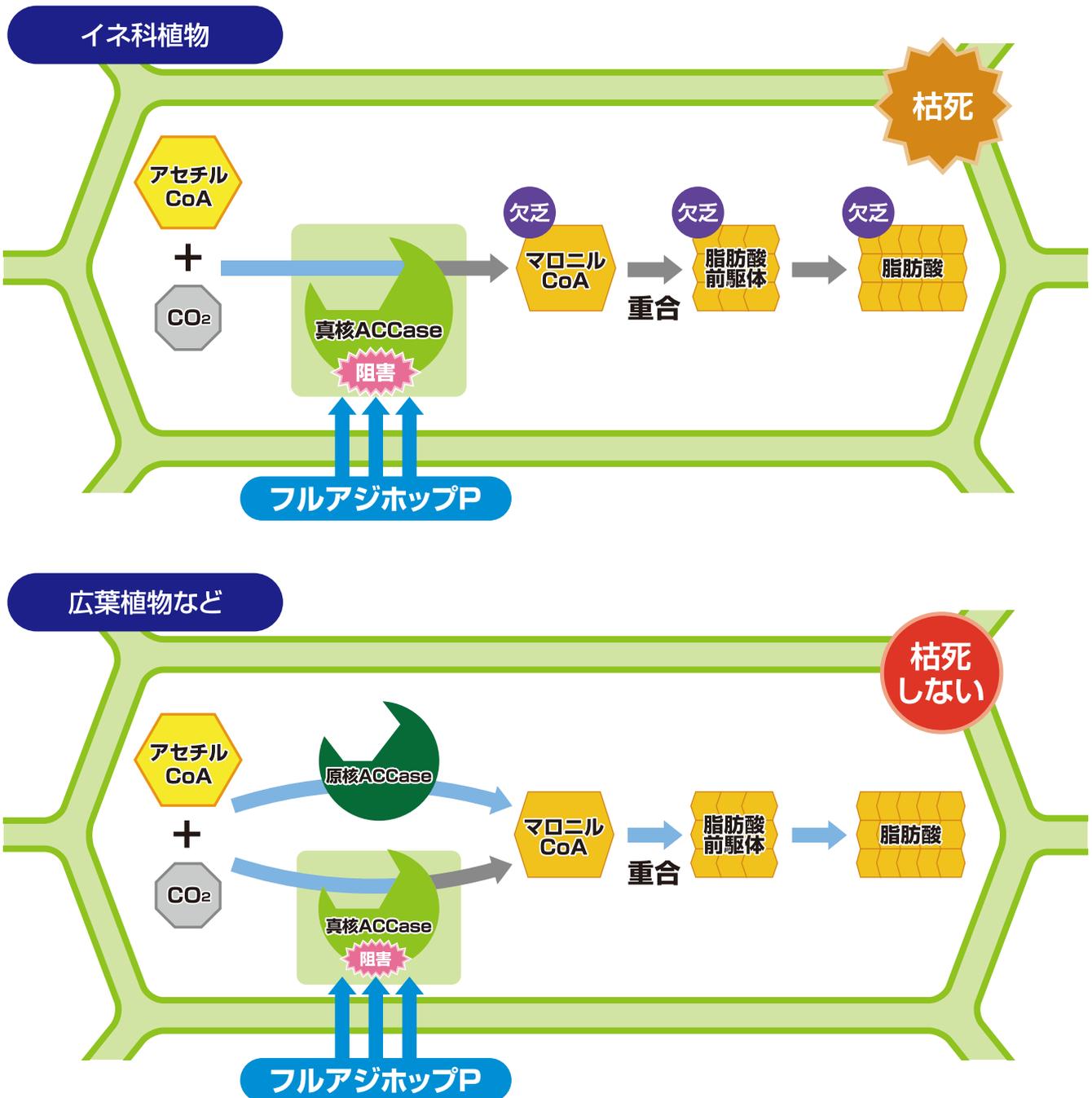
調査日：平成22年1月14日(処理28日後)

薬剤散布1時間後、2時間後、4時間後、6時間後、12時間後及び24時間後に研究所内人工降雨機によって10mm/hrで降雨を行い、その後の除草効果を確認した。

3. 広葉作物に対する高い安全性

● 選択性のメカニズム

本剤の有効成分フルアジホップPはイネ科植物にのみ特異的に作用し、広葉植物にはほとんど作用しません。イネ科植物と広葉植物では細胞内に存在するアセチルCoAカルボキシラーゼ(ACCase)の種類が異なることが知られており、イネ科植物にはフルアジホップPに感受性のある真核細胞型ACCaseのみが存在し、広葉植物には真核細胞型ACCaseの他にフルアジホップPに耐性のある原核細胞型ACCaseが存在するため、ワンサイドP乳剤はイネ科植物にのみ除草活性を示します。



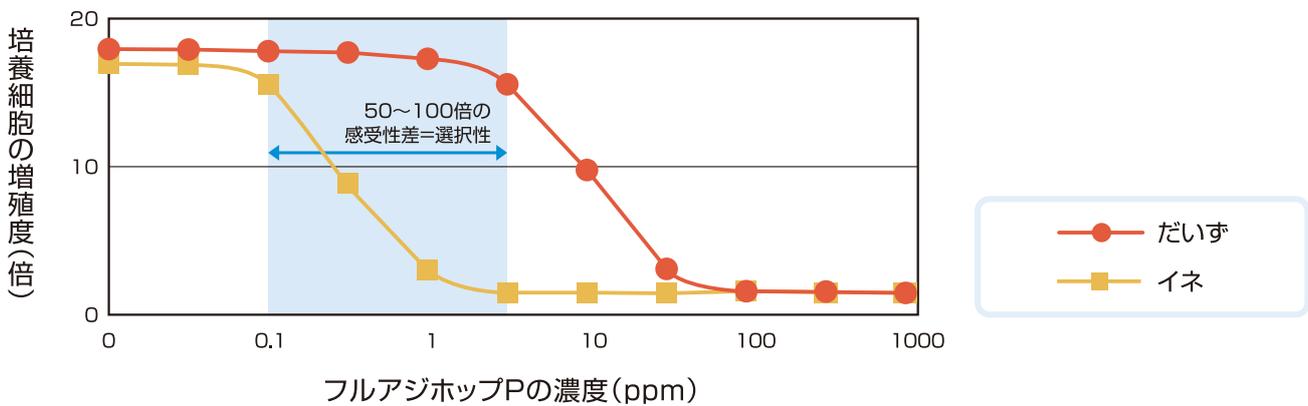
 : 真核細胞型アセチルCoAカルボキシラーゼ (フルアジホップPに感受性)

 : 原核細胞型アセチルCoAカルボキシラーゼ (フルアジホップPに低感受性)

選択性が明瞭であり、豆類、いも類、野菜等の広葉作物にはほとんど影響がないため、広葉作物の生育期に全面茎葉散布することでイネ科雑草を防除することが可能です。

培養細胞による選択性

イネおよびだいずの懸濁培養細胞に対するフルアジホップPの生育阻害について検定したところ、イネとだいずの間には50~100倍の感受性(選択性)差が認められました。



●葉茎処理による選択性

本剤はイネ科植物に対して低薬量でも除草活性を示しますが、広葉植物に対してはイネ科植物に対する薬量以上を処理しても除草活性を示しません。

石原産業(株)研究所内での試験結果では、ワンサイドP乳剤を75ml/10a処理した場合でも、ほとんどのイネ科植物に除草活性を示しますが、広葉植物に対しては300ml/10a処理でもほとんど影響しないことが確認されています。

主な雑草、作物の選択性

雑草	ワンサイドP乳剤の薬量(/10a)	イネ科雑草							広葉雑草		
		ノビエ	ネズミムギ	オヒシバ	エノコログサ	メヒシバ	シバムギ	ススキ	チガヤ	オナモミ	シロザ
	75ml	100	100	100	100	100	90	40	30	0	0
	300ml	100	100	100	100	100	100	95	95	0	0

作物	ワンサイドP乳剤の薬量(/10a)	イネ科作物				広葉作物					
		イネ	オオムギ	コムギ	トウモロコシ	ダイズ	アズキ	ラッカセイ	キュウリ	トマト	キャベツ
	75ml	100	100	100	100	0	0	0	0	0	0
	300ml	100	100	100	100	0	0	0	10	10	0

作物	ワンサイドP乳剤の薬量(/10a)	広葉作物				果樹		
		タマネギ	テンサイ	ナタネ	ヒマワリ	ワタ	ミカン	リンゴ
	75ml	0	0	0	0	0	0	0
	300ml	0	0	0	10	0	0	0

試験場所：石原産業株式会社 中央研究所

抑草率 0：効果なし
100：枯殺

4. 幅広い使用場面

●ワンサイドP乳剤の使用基準

作物名	適用雑草名	使用時期		10アール当たり使用量		本剤の使用回数	使用方法	フルアジホップを含む農薬の総使用回数
				薬量 (mL)	希釈水量 (ℓ)			
だいず	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) シバムギ、レッドトップ	イネ科雑草 8~10葉期	収穫60日前まで	100	100	1回	雑草茎葉散布 又は全面散布	1回
		イネ科雑草 5~8葉期						
		イネ科雑草 3~5葉期		75~100				
えだまめ		イネ科雑草 5~8葉期	収穫30日前まで	100	通常散布 50~100			
		イネ科雑草 3~5葉期	収穫60日前まで	75~100				
収穫45日前まで								
収穫30日前まで			50~100					
収穫45日前まで								
あずき		イネ科雑草 3~5葉期	収穫90日前まで	75~100	70~100			
いんげんまめ			収穫30日前まで	50~100				
		収穫45日前まで						
		収穫30日前まで	75~100					
にんじん		収穫45日前まで						
だいこん		イネ科雑草 3~8葉期		収穫30日前まで	50~100			
てんさい			収穫後~定植まで					
たまねぎ	イネ科雑草 3~5葉期	収穫21日前まで	75~100	雑草茎葉散布				
いちご(親株床)		収穫60日前まで	50~75					
		収穫30日前まで	75~100					
トマト	イネ科雑草 3~8葉期	収穫前日まで	75~100	75~100				
かんしょ		収穫30日前まで	50~100	100				
		収穫90日前まで						
ばれいしょ	雑草生育期	イネ科雑草 3~5葉期	収穫30日前まで	70~100	雑草茎葉散布 又は全面散布	2回以内		
キャベツ			収穫前日まで					
			収穫30日前まで					
アスパラガス		イネ科雑草 3~5葉期	収穫21日前まで	100				
やまのいも			収穫30日前まで					
にんにく			収穫90日前まで					
ブロッコリー	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	春季~夏季 草丈20cm以下	収穫120日前まで	200~300	雑草茎葉散布	1回		
せんきゅう				300~500				
かんきつ				春季~夏季 草丈30cm以下				
いぐさ	水田一年生イネ科雑草	落水後 イネ科雑草3~5葉期		100~200	雑草茎葉散布 又は全面散布(落水)	1回		
		イネ科雑草3~5葉期		75~100				
桑	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) シバムギ、レッドトップ	草丈20cm以下		100~200	雑草茎葉散布	2回以内		
		草丈20cm以下		100~200				
日本芝	ベントグラス	芝休眠期		150	散布	1回		
水田作物 (水田畦畔)*1	一年生イネ科雑草、 キシュウスズメノヒエ	草丈30cm以下	収穫120日前まで	200~400	雑草茎葉散布	1回		
樹木等*2	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	草丈20cm以下		150~300	植栽地を除く樹 木等の周辺地に 雑草茎葉散布	3回以内		
		草丈30cm以下		400~600				

●適用場所 *1:水田畦畔 *2:公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等

●使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- (2) 散布液の調製にあたっては本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布してください。
- (3) 少量散布(25～50ℓ)の場合は、専用ノズルを使用してください。
- (4) 本剤使用の際は展着剤を加用すると効果的です。
- (5) 本剤をだいきんに使用する場合、間引き菜又はつまみ菜として食用には供さないでください。
- (6) 本剤は広葉及びカヤツリグサ科雑草には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用してください。尚、広葉雑草が混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との組み合わせで使用してください。
- (7) イネ科雑草の生育盛期が本剤の散布適期であり、冬期の低温時や出穂期以降など雑草の生育が停止している時は効果が劣るので、適期を失しないよう散布してください。
- (8) 本剤は遅効性であり、イネ科雑草が完全枯死に至るには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないよう注意してください。イネ科作物には薬害が生じるので、周囲にイネ科作物がある場合は薬液が飛散しないよう注意して散布してください。
- (9) 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないよう均一に散布してください。
- (10) 作物の生育期に使用する場合：散布前後の気象が低温、寡照であると、処理葉に褐斑やクロロシスを生じる恐れがあるのでこの場合には所定範囲の少なめの薬量とし、展着剤の加用をさけてください。
- (11) 日本芝に使用する場合、次の事項に注意してください。
 - ① 芝の生育期に散布すると薬害を生ずるので、使用時期を誤らないよう注意してください。
 - ② 寒地型西洋芝には微量で薬害が生じるので、飛散、流出などにより薬害が生じることがないように十分注意して散布してください。
 - ③ 本剤は効果の発現が遅く、春先になってから現れる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないよう注意してください。
- (12) 激しい降雨の予想される場合は、使用をさけてください。
- (13) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布してください。
- (14) 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- (15) 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- (16) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - ① 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意してください。
 - ② 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器、空袋等は、環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- (17) 誤飲などのないよう注意してください。
 -  (18) 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。また散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 -  (19) 原液は皮膚に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。また散布液も皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
 -  (20) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- (21) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼をしてください。
- (22) 公園、堤とう等で使用する場合、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- (23) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

●ワンサイドP乳剤の上手な使い方

① 処理時期

- 水田畦畔
- 樹木等
- だいず
- あずき・いんげんまめ・ばれいしょ等
(かんしょに使用する場合は50~75ml/10aまで)

イネ科雑草

イネ科雑草状態	発生始期		
雑草葉齢		3葉期	5葉期
雑草草丈			

② 作物別の適量を守って散布してください。

だいず、にんじん、ばれいしょ等の畑地・園芸地では100ml/10aまでで使用してください。

(かんしょに使用する場合は75ml/10aまで)

その他の作物および緑地管理分野についても適用表を確認の上、使用してください。

③ 雑草防除について

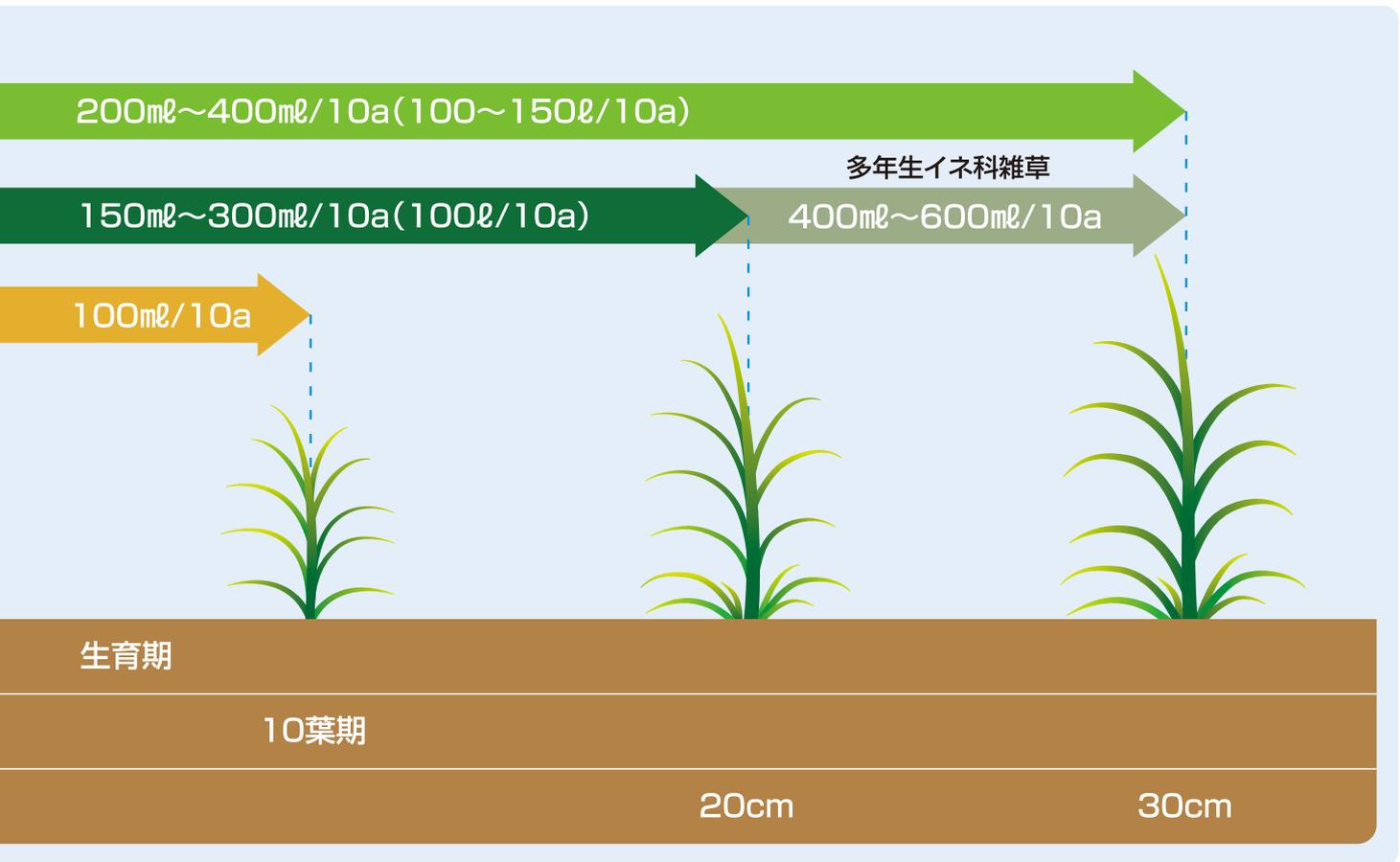
本剤はイネ科専用除草剤ですので、イネ科雑草が優占する場面で使用することをおすすめします。

広葉雑草やカヤツリグサ科雑草等の非イネ科雑草の防除には、それらに有効な除草剤との体系防除を行ってください。多年生イネ科雑草の防除の際は幼穂形成期前の葉面積が多い時期に散布すると効果的です。

④ 除草効果について

本剤の効果発現は遅効的ですので、完全枯殺まで散布後2~3週間程度かかる場合があります。

散布後は効果発現を十分に見定めるとともに、二度撒きしないよう注意してください。

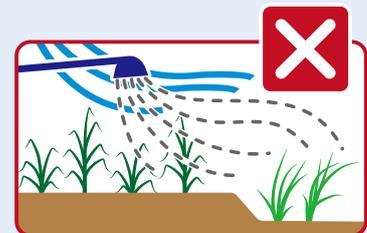


⑤ 飛散・流れ込みに対する注意

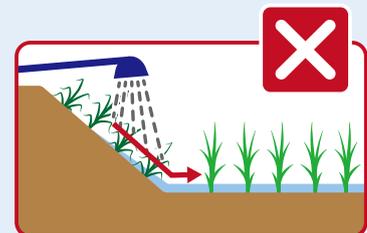
本剤の散布液がイネ科作物にかかると薬害を生じる場合があるので、周辺に飛散しないように十分注意してください。

傾斜面では散布液が下方に流れる場合があるため、水田や水路、河川に流れ込まないように注意してください。

水田畦畔等で使用する場合は特に水稻に飛散しないように注意してください。また水田への流れ込みに注意してください。



飛散に注意



流れ込みに注意

⑥ 乾燥条件での散布の注意

土壌が極度な乾燥状態にある場合は植物の代謝が緩慢になることにより、薬剤の移行や効果発現が起こり難くなる可能性があるため、適度な土壌水分条件で使用してください。

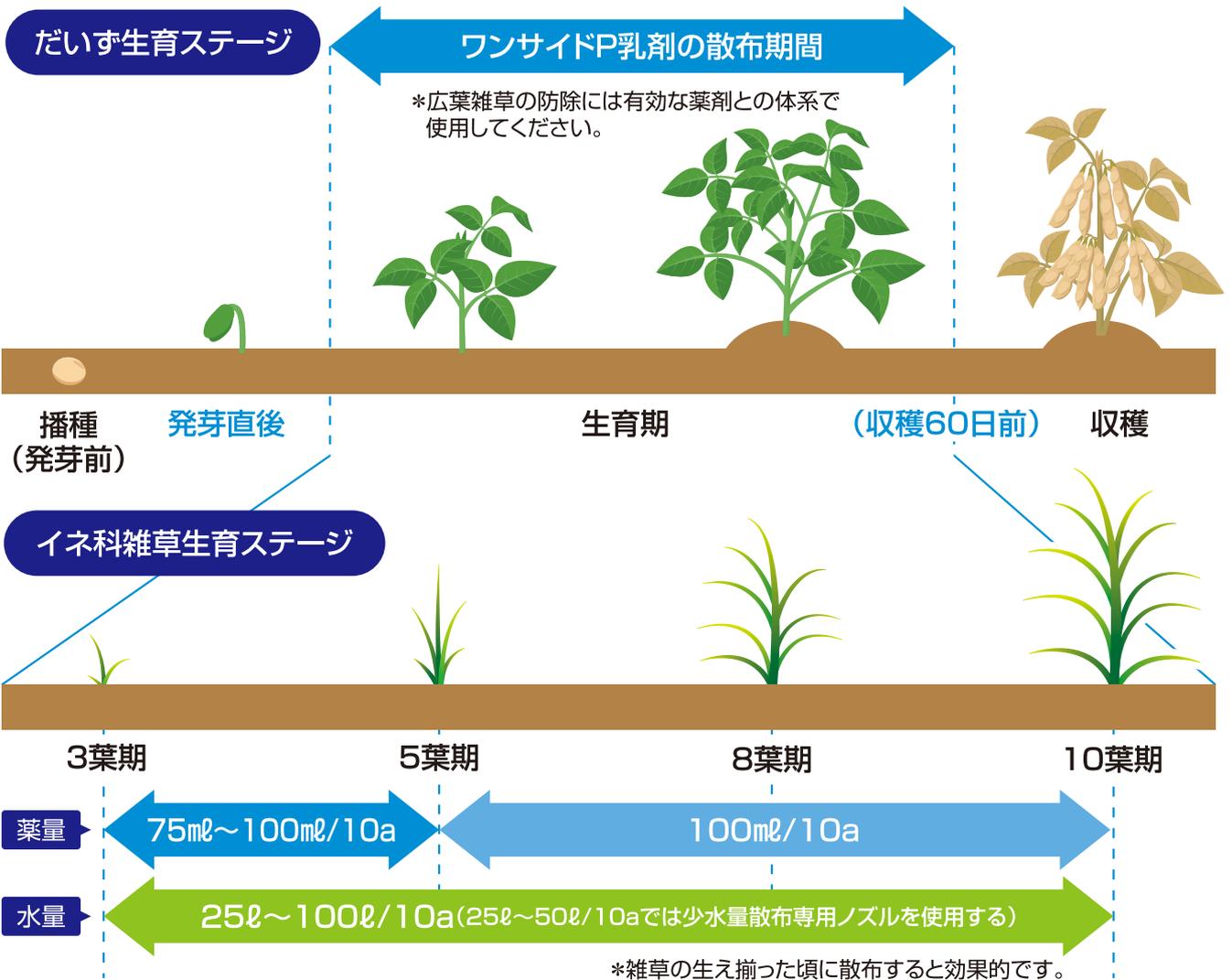
⑦ 展着剤の加用について

本剤は製剤中に展着成分が含まれているため、畑地での一年生イネ科雑草の防除には特に展着剤を加用する必要はありません。

多年生イネ科雑草が繁茂する場合や、緑地管理分野では展着剤を加用することで除草効果の安定性が増すため有効です。

●だいででの上手な使い方

だいで生育期(収穫60日前まで)、イネ科雑草3~8葉期でワンサイドP乳剤を散布することにより、イネ科雑草を効果的に防除することが可能です。



ワンサイドP乳剤は浸透移行性が高く、雑草の先端に薬剤が付着した場合でも雑草全体に有効成分が移行し、効果を示します。



メヒシバの処理時

●部にワンサイドP乳剤2,500ppmを塗布

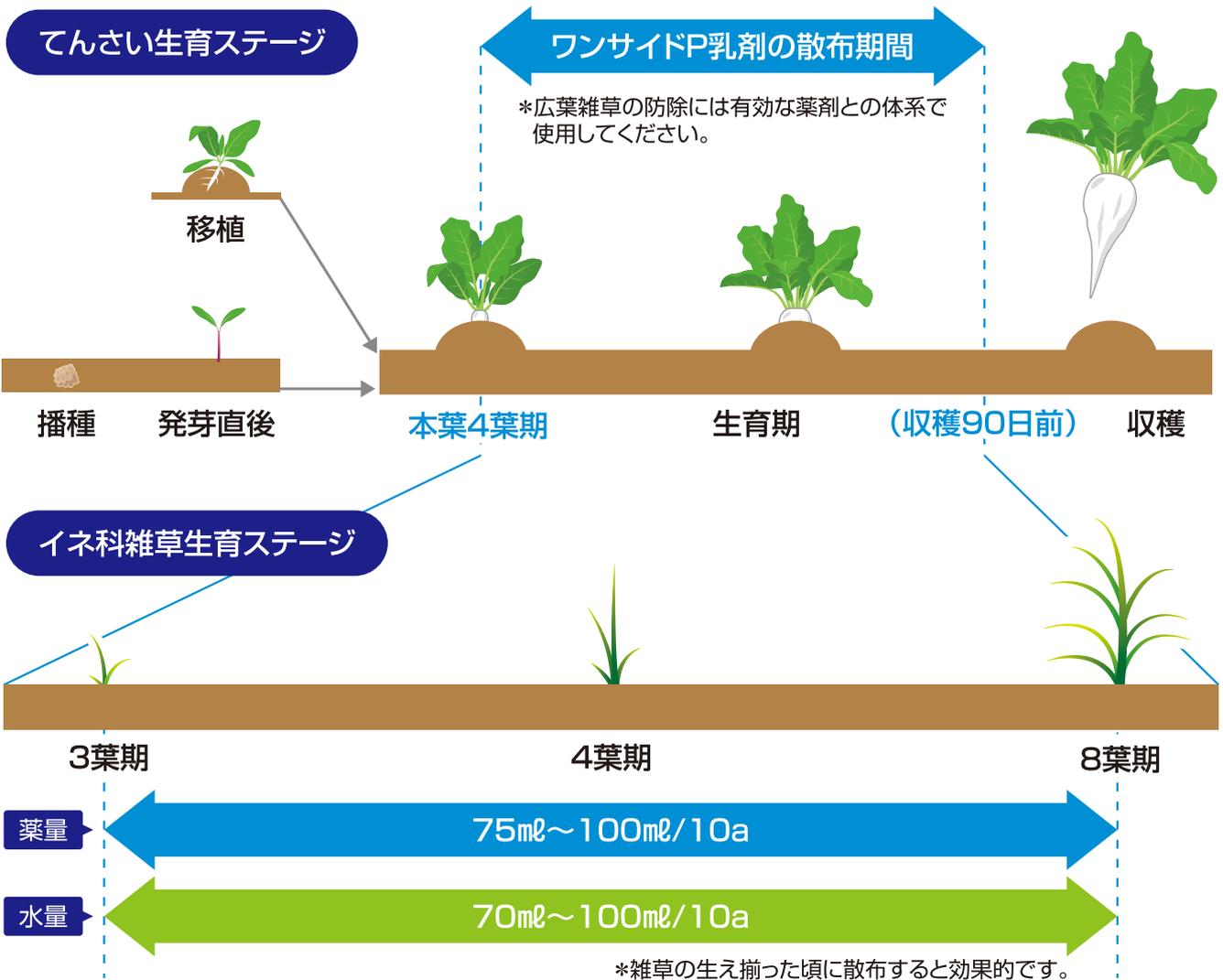


処理15日後

植物全体に移行し、特に生長点に作用している。

●てんさいでの上手な使い方

てんさいの本葉4葉期から生育期(収穫90日前まで)、イネ科雑草3~5葉期でワンサイドP乳剤を散布することにより、イネ科雑草を効果的に防除することが可能です。



雑草発生始期



雑草3~5葉期



雑草生育盛期

散布最適期

5. 少水量散布による作業の省力化やコスト削減

●ワンサイドP乳剤の少水量散布技術

本剤は、一部の作物を対象として少水量散布(25ℓ/10a)の登録を取得しました。

少水量散布の場合、従来の通常水量散布(100ℓ/10a)と比べると、同じ量の散布液で2~4倍の面積に散布することが可能となります。

そのため、散布時間の短縮や、散布液調製回数の削減による省力化やコスト削減が期待できます。

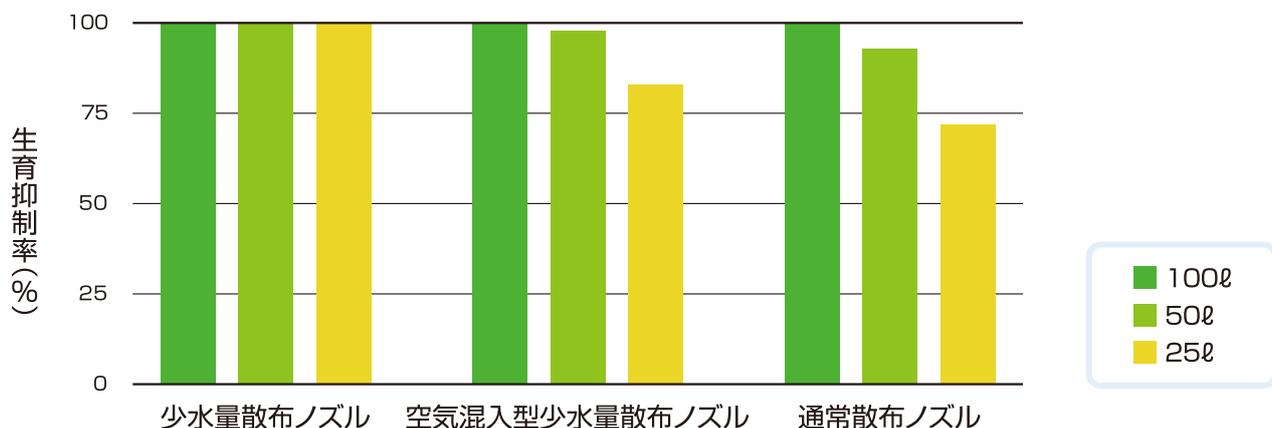
少水量散布を行う際は少水量散布に適したノズルを使用してください。

*100ℓ/10a散布用ノズルで少水量散布を行うと除草効果が低下する場合があります。

(雑草の対する薬剤の付着にムラが生じるため)

ノズルによって薬液の噴出度合が異なりますので、散布ムラが起こらないように注意して散布してください。

散布ノズルの違いによる除草効果差



試験概要

試験場所：石原産業株式会社中央研究所
対象草種：イヌビエ8葉期
散布機器：加圧式散布機

投下薬量：ワンサイドP乳剤75mℓ/10a
試験日時：平成21年7月~8月
散布水量：25ℓ/10a、50ℓ/10a、100ℓ/10a

吐出水量確認試験

散布水量	少水量散布ノズル	空気混入型少水量散布ノズル	通常散布ノズル
25ℓ/10a			
50ℓ/10a			

感水紙を用い各ノズルからの吐出水量を確認した。

■ 青色：薬液の付着した部分 ■ 黄色：薬液の付着しなかった部分

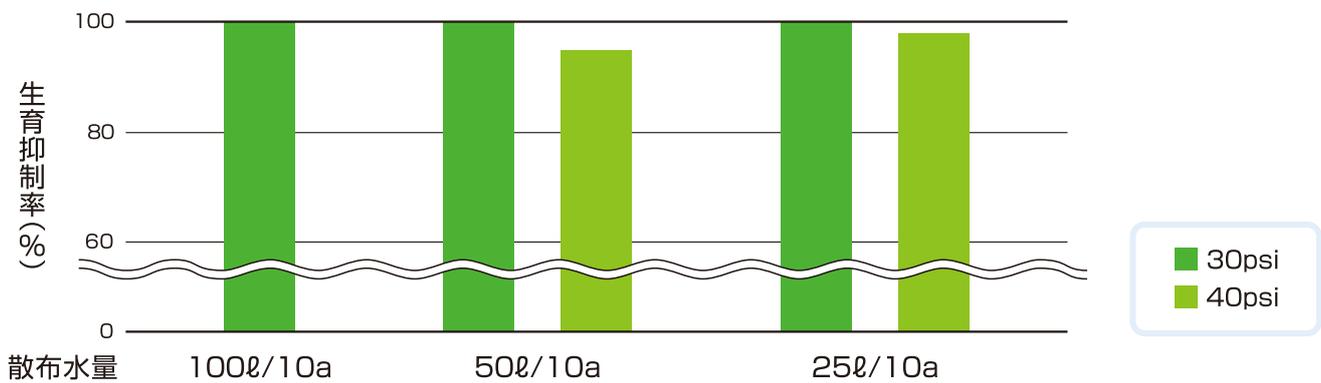
適切な散布圧で散布してください。

使用する少水量散布専用ノズルに適した散布圧で散布してください。

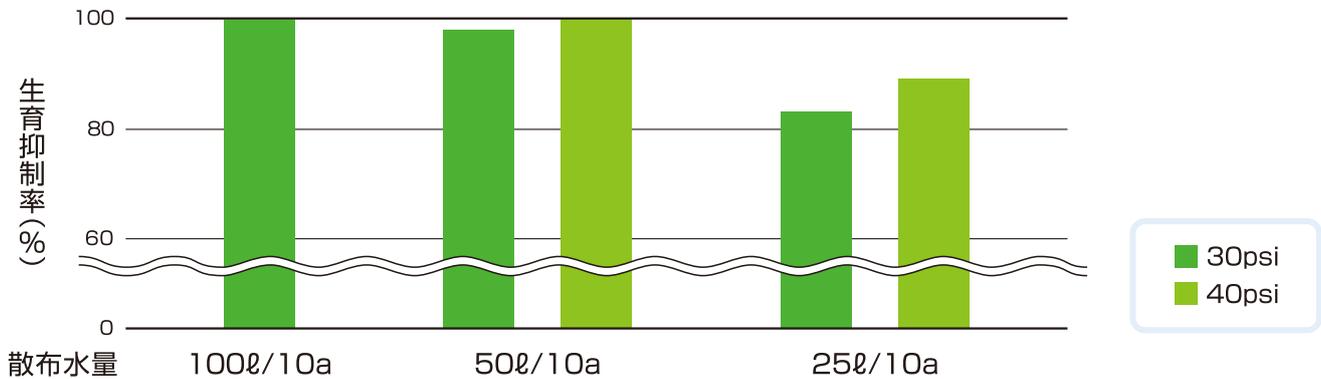
*ノズルに散布圧が適さない場合、除草効果が低下するばかりでなく、散布機やノズル等の破損に繋がる可能性がありますので注意してください。

散布水量および散布圧による効果差

少水量散布ノズル



空気混入型少水量散布ノズル



試験概要

試験場所：石原産業株式会社中央研究所
対象草種：イヌビエ8葉期
散布機器：加圧式散布機

投下薬量：ワンサイドP乳剤75ml/10a
試験日時：平成21年7月～8月
散布水量：25ℓ/10a、50ℓ/10a、100ℓ/10a

1気圧≒14.7psi
(atm)
30psi≒2気圧
40psi≒2.7気圧

⚠ 薬剤の飛散には十分注意してください。

少水量散布の薬液は通常のものより、高濃度になっているため、周辺作物に対する影響が強くなりますので、飛散には十分に注意して散布してください。

委託試験結果概要(高葉齢)

だいす

平成18年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：新規：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評点	判定	所見	
				一年生イネ科		総計						
				ノビエ	エノコグサ							(広葉雑草)
宮城県古川農業試験場	品種	あやこがね	乾燥重量 無処置	ノビエ 0.4g	エノコグサ 0g	(広葉雑草) (96.4g)	(100%) 0.4g	(%) 410kg/10a			・散布後のイネ科雑草の発生は皆無で、その効果は高かった。	
	田畑の別	畑	大豆畦間吊り下げノズル 大豆9葉期								・大豆の生育収量に対する薬害は見られなかった。	
	土壌条件	灰色低地土 (植壊土)	大豆9葉期 ノビエ3~10葉期								・雑草害は対象外の広葉草種による。	
	播種日	H18/5/23	エノコグサ3~7葉期	100ml/100ℓ	0	0	0	0	無	73	AO	○
	処理時期	大豆9葉期 H18/7/31		150ml/100ℓ	0	0	0	0	無	70	AO	○
	調査日	H18/8/29(30日後)		200ml/100ℓ	0	0	0	0	無	63	AO	○
				対)Aフロアブル 300ml/100ℓ	0	0	0	0	無	63		
新潟県農産物研究センター	品種	エンレイ	乾燥重量 無処置	メヒシバ 20.8g	エノコグサ 0.4g		(100%) 21.2g	(70%) 135kg/10a			・いずれの薬量とも高い効果が認められた。	
	田畑の別	普通畑	電動噴霧器で全面茎葉処理 (水量100ℓ/10a)								・各薬量とも枯死までに3週間程度かかる。	
	土壌条件	表層腐植質黒ボク土 (適湿)	メヒシバ8葉期(25cm) エノコグサ7葉期	100ml	1	0	1	無	94	AO	○	
	播種日	H18/5/26	大豆4葉期	150ml	0	0	0	無	96	AO	○	
	処理時期	イネ科8葉期 H18/7/4(+39)		200ml	0	0	0	無	112	AO	○	
	調査日	H18/7/28(24日後)		100ml(展着剤)	t	0	t	無	116			
				対)Aフロアブル 300ml	t	0	t	無	127			
兵庫県立農林水産技術総合センター	品種	サチユタカ	生重量 無処置	イヌビエ 418g	メヒシバ 309g	エノコグサ 287g	(100%) 1014g	(45%) 460kg/10a			・処理時に既存の一年生イネ科雑草全般に対して高葉齢であっても防除効果は高く、低葉齢では展着剤加用で除草効果が高まった。作物に対する薬害等は認められなかった。	
	田畑の別	転換畑(2年目)	大豆生育期雑草茎葉散布 イヌビエ8葉期								・大豆生育期に既存のイネ科雑草(7~8葉期)に対して全面茎葉散布する処理方法で、使用薬量100~200ml/10a、散布水量100ℓ/10aで実用化可能である。100ml処置では展着剤加用で効果が高まる。	
	土壌条件	壤土 (適湿)		100ml/100ℓ	3	8	9	6	無	98	AO	○
	播種日	H18/6/29		150ml/100ℓ	0	5	0	2	無	102	AO	○
	処理時期	イネ科雑草7~8葉期 H18/7/30(+31)		200ml/100ℓ	3	3	0	2	無	99	AO	○
	調査日	H18/8/17(18日後)	(展着剤加工)	100ml/100ℓ	3	3	4	3	無	99	AO	○
				対)Aフロアブル 300ml/100ℓ	1	1	6	2	無	97		
宮崎県総合農業試験場	品種	フクユタカ	生重量 無処置	メヒシバ 730.14g	ヒエ 16.74g	オヒシバ 89.48g	(100%) 836.36g	(%) kg/10a			・200ml展着剤無または100ml展着剤(アプローチBI, 1,000倍)有で対照剤並かそれ以上の除草効果あり。	
	田畑の別	畑	全面茎葉処理 (水量100ℓ/10a)								・大豆の薬害はない。	
	土壌条件	黒色火山灰壤土 (適湿)	メヒシバ5~8葉期	100ml展着剤無	26	0	0	23	無	B2	△	
	播種日	H18/7/12		150ml展着剤無	9	270	0	13	無	A2	△	
	処理時期	大豆4~5葉期 H18/8/7(+26)		200ml展着剤無	6	0	t	5	無	AO	○	
	調査日	H18/9/5(29日後)		100ml展着剤有	1	0	0	1	無	AO	○	
				対)Aフロアブル 200ml	3	0	0	3	無			

平成19年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科5-8L拡大 フルアジホップP17.5%

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評点	判定	所見		
				一年生イネ科		総計							
北海道立十勝農業試験場	品種	トヨムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 679g		(100%) 679g	(94%) 314kg/10a			・8葉期までのイヌビエに対して高い除草効果。効果の発現は対象のポルトよりも遅効的で、200㎖/10aでも完全枯死までに3週間以上を要す。調査時に若干の残草があるが、再生はない。 ・薬害もなく、8葉期まで100㎖/10aで実用化可能。		
	田畑の別	畑	茎葉処理(水量100ℓ/10a) 大豆4.5葉期(50cm)	薬剤/散布水量	%		%	%					
	土壌条件	乾性火山性土・壤土(湿)	イヌビエ6~8葉期	100㎖/100ℓ	1		t	無	92	AO		◎	
	播種日	H19/5/22		150㎖/100ℓ	1		0	無	92	AO		◎	
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H19/7/6(+45)		200㎖/100ℓ	t		0	無	93	AO		◎	
	調査日	H19/7/26(20日後)		対)Aフロアブル 300㎖/100ℓ	0		0	無	103				
補調北海道	品種	ツルムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 384.0g	エノコロガサ 156.0g	メヒシバ 25.4g	(100%) 565.4g	(66%) 287.8kg/10a		・効果完成は対象剤よりやや早い。薬量間で100㎖は完成やや遅いが枯死する。 ・各薬量とも、6葉期拡大可能であるが初年目であり年次変動の確認・継続。		
	田畑の別	畑	茎葉処理(水量100ℓ/10a) 大豆3.0葉期		%	%	%	%	%				
	土壌条件	火山性土壌(黒ボク)(乾)	イネ科6葉期	100㎖	0	0	0	0	無	100		AO	○
	播種日	H19/5/25		150㎖	0	0	0	0	無	100		AO	○
	処理時期	イネ科6葉期 H19/6/22(+28)		200㎖	0	0	0	0	無	100		AO	○
	調査日	H19/7/18(22日後)		対)Aフロアブル 300㎖	0	0	0	0	無	99			
新潟農総研作物研究センター	品種	エンレイ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	メヒシバ 14.7g	ヒエ 23.5g	(100%) 38.2g	(103%) 367kg/10a			・いずれの薬量とも高い効果が認められた。 ・枯死までに3週間程度かかる。 ・各薬量とも薬害は認められなかった。		
	田畑の別	転換畑(2年目)	電動噴霧器で全面茎葉処理(水量100ℓ/10a)		%	%	%	%	%				
	土壌条件	沖積堆積土(適湿)	メヒシバ6葉期(15cm) ヒエ7葉期(28cm) 大豆4葉期	100㎖	9	0	0	6	無	108		AO	◎
	播種日	H19/6/5		150㎖	6	0	0	3	無	109		AO	◎
	処理時期	イネ科7葉期 H19/6/28(+23)		200㎖	3	0	0	2	無	111		AO	◎
	調査日	H19/7/19(21日後)		対)Aフロアブル 300㎖	0	0	0	0	無	107			
三重県科学技術振興センター 農業研究部	品種	フクユタカ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	イヌビエ 158g		(100%) 158g	(70%) 184kg/10a			・大豆に対する薬害は認められなかった。 ・イヌビエに対する除草効果は比較剤に比べて低く、再検討が必要。		
	田畑の別	転換畑(初年)	全面茎葉散布(水量100ℓ/10a) 1区10㎡ 2反復		%		%	%	%				
	土壌条件	沖積堆積土(適湿)	イヌビエ6.5~7葉期(25cm) 大豆3.5~4葉期(35cm)	100㎖	38			38	無	137		B2	△
	播種日	H19/7/4		150㎖	24			24	無	119		B2	△
	処理時期	イネビエ7葉期 H19/7/31(+27)		200㎖	19			19	無	134		A3	△
	調査日	H19/8/21(21日後)		対)Aフロアブル 200㎖	5			5	無	118			
大分県農林水産研究センター	品種	フクユタカ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	メヒシバ 98g	オヒシバ 4g	ヒエ 35g	(100%) 137g	(79%) 210kg/10a		・薬害なし。 ・薬量100㎖、150㎖では効果不十分。要検討薬量200㎖、水量100㎖で実用化可能である。 ・処理後10日で枯死。 ・効果は薬量の多い方が高く、残草は大型。		
	田畑の別	転換畑(2年目)	大豆生育期(4.1葉期) メヒシバ・オヒシバ(6~7葉期) ヒエ(5~6cm)	薬剤/散布水量	%	%	%	%	%				
	土壌条件	洪積・堆積土(乾)		100㎖/100ℓ	40	0	34	0	無	79		B2	△
	播種日	H19/6/28		150㎖/100ℓ	25	0	36	0	無	80		B2	△
	処理時期	大豆生育期 H19/7/30(+32)		200㎖/100ℓ	19	0	22	0	無	89		AO	○
	調査日	H19/8/17(18日後)		対)Aフロアブル 250㎖/100ℓ	25	0	0	0	無	77			
宮崎県総合農業試験場	品種	フクユタカ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量・生重量 無処置	メヒシバ 205.4g	オヒシバ 135.2g	イヌビエ 35.8g	(100%) 376.4g	(%) kg/10a		・対照剤並みの除草効果と残効あり。 ・大豆への薬害はない。 ・実用性が非常に高い。		
	田畑の別	畑	電動噴霧器で全面茎葉処理(水量100ℓ/10a)		%	%	%	%	%				
	土壌条件	黒色火山灰土(適湿)		7	8	13	8	無	105	AO		◎	
	播種日	H19/8/6		14	5	10	10	無	120	AO		◎	
	処理時期	イネ科雑草5~8葉期 大豆期花期直前 H19/9/8(+31)		4	15	1	8	無	99	AO		◎	
	調査日	H19/9/28(+22)		8	7	7	7	無	101				

委託試験結果概要(高葉齢)

だいす

平成20年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科5-8L(年次変動確認全域)

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評価	判定	所見		
				一年生イネ科		総計							
北海道立十勝農業試験場	品種	トヨムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 398.0g		(100%) 398.0g	(56%) 373kg/10a			・遅効的であるが、6~8葉期のイヌビエに対する効果は高く、薬害も認められないことから、実用化可能である。 ■減収の原因 非イネ科雑草害		
	田畑の別	畑	茎葉処理(水量100ℓ/10a) イヌビエ6~8葉期 大豆:本葉4.2葉期	100mℓ	3		3	無	89	AO		◎	
	土壌条件	乾性火山性土・壤土(適湿)		150mℓ	0		0	無	73	AO		◎	
	播種日	H20/5/27		200mℓ	0		0	無	79	AO		◎	
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H20/7/7(+41)		対)Aフロアブル 200mℓ/25ℓ(7/7 処理)	1		1	無	84				
	調査日	H20/7/24(17日後)											
北海道試験地 場内圃場	品種	ツルムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 103.6g		(100%) 103.6g	(87%) 338kg/10a			・各処理区とも極大の除草効果が認められ、薬害も認められなかったため、薬量100~200mℓ、散布水量100ℓ/10aで実用化可能と考えられた。		
	田畑の別	畑	(+3)ロロックス水和剤 100g/100ℓ前処理 全面茎葉処理(水量100ℓ/10a) イネ科7葉期 大豆4葉期(23cm)	100mℓ	0		0	無	97	AO		◎	
	土壌条件	黒ボク土・埴壌土(乾燥)		150mℓ	0		0	無	107	AO		◎	
	播種日	H20/5/25		200mℓ	0		0	無	96	AO		◎	
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H20/7/10(+46)		対)Aフロアブル 300mℓ	0		0	無	104				
	調査日	H20/7/24(14日後)											
三重県農業研究所 場内圃場	品種	フクユタカ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	イヌビエ 29.5g		(100%) 29.5g	(76%) 357kg/10a			・対照薬剤と比較して遅効的であるが、各薬量とも対象草種に対して効果が高い。 ・残草していたイヌビエについても抑制がかかっていたため、大豆の被覆に伴い枯死した。 ・薬害は認められなかった。 ・100~200mℓ(水量100ℓ)で一年生イネ科雑草を対象に実用化可能。		
	田畑の別	水田転換畑	茎葉処理(水量100ℓ/10a) イヌビエ8.3葉期(21cm) 大豆4.6葉期(23cm)	100mℓ	12		12	無	112	AO		◎	
	土壌条件	沖積埴壌土(乾燥)		150mℓ	7		7	無	110	AO		◎	
	播種日	H20/7/14		200mℓ	5		5	無	98	AO		◎	
	処理時期	大豆生育期 H20/8/5(+22)		対)Aフロアブル 200mℓ	0		0	無	100				
	調査日	H20/8/21(16日後)											
大分県農林水産研究センター 水田農業研究センター	品種	むらゆたか	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	アゼガヤ 25.3g	オヒシバ 21.3g	その他 46.2g	(100%) 92.8g	(79%) 366kg/10a		・一年生イネ科雑草に対し、いずれの薬量とも高い除草効果が認められた。 ・完全枯殺までにした日数は9~10日であった。 ・薬害なし。 ・薬量100~200mℓ、水量100ℓで実用化可能である。		
	田畑の別	転換畑	茎葉処理 大豆生育期 アゼガヤ6~8葉期 オヒシバ6~8葉期	薬剤/散布水量	%	%	%	%	%				
	土壌条件	洪積・埴壌土(乾)		100mℓ/100ℓ	0	0	0	3	無	117		AO	◎
	播種日	H20/7/10		150mℓ/100ℓ	0	0	0	0	無	130		AO	◎
	処理時期	大豆生育期 H20/8/20(+41)		200mℓ/100ℓ	0	0	0	0	無	100		AO	◎
	調査日	H20/9/16(27日後)		対)Aフロアブル 200mℓ/100ℓ	0	0	0	1	無	105			

委託試験結果概要(少水量)

だいず

平成20年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：新規：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科雑草3-5L(少水量散布：全域) フルアジホップP17.5%

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評価点	判定	所見
				一年生イネ科		総計					
北海道立十勝農業試験場	品種	トヨムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 155.0g		(100%) 155.0g	(56%) 373kg/10a			・遅効的であるが、いずれの薬量、水量とも3~5葉期のイヌビエに対する除草効果は高く、薬害も認められなかった。
	田畑の別	畑	茎葉処理 (少水量25~50ℓ/10a)	薬剤/散布水量	%		%				・除草効果の年次変動を確認するため継続。
	土壌条件	乾性火山性土・壤土 (適湿)	イヌビエ3~5葉期 大豆 本葉1.5葉期	75ml/50ℓ	4		4	無	85	AO	○
	播種日	H20/5/27		75ml/25ℓ	2		2	無	80	AO	○
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H20/6/25(+41)		100ml/25ℓ	1		1	無	84	AO	○
	調査日	H20/7/14(19日後)		対)ワンサイドP乳剤 (7/7 処理)100ml/100ℓ	0		0	無	84		
北海道試験地 場内圃場	品種	ツルムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 304.0g		(100%) 304.0g	(87%) 338kg/10a			・各処理とも極大の除草効果が認められ、薬害も認められないことから、薬量75~100ml、散布水量25~50ℓ/10aで実用化可能と考えられた。
	田畑の別	畑	(+3)ロロックス水和剤 100g/100ℓ前処理	薬剤/散布水量	%		%				
	土壌条件	黒ボク土・壇壤土 (乾燥)	全面茎葉処理 イネ科4葉期 大豆2葉期	75ml/25ℓ	2		2	無	96	AO	◎
	播種日	H20/5/25		75ml/50ℓ	5		5	無	101	AO	◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H20/6/26(+32)		100ml/25ℓ	5		5	無	95	AO	◎
	調査日	H20/7/7(11日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	4		4	無	97		
植調 古川試験地	品種	大豆(タンレイ)	処理方法・処理時の状況	無処置	メヒシバ 352.2g		(100%) 352.2g	(%) kg/10a			・メヒシバに茎葉処理効果高い。
	田畑の別	転換畑(10年)	全面茎葉処理 (水量:25~50ℓ/10a)	薬剤/散布水量	%		%				・大豆に薬害なし。
	土壌条件	転植土 (適湿)	メヒシバ~4.7葉期 大豆2.5葉期	75ml/50ℓ	7		12	無	112	AO	◎
	播種日	H20/5/28		75ml/25ℓ	8		7	無	110	AO	◎
	処理時期	茎葉処理 H20/6/27(+30)		100ml/25ℓ	4		5	無	98	AO	◎
	調査日	H20/7/31(34日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	5		0	無	100		
植調 福岡試験地	品種	フクユタカ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	アゼガヤ 105.7g	メヒシバ 100.7g	ノビエ 45.3g	(100%) 251.7g	(%) kg/10a		・少水量での効果・薬害の確認のため試験を実施した。・対照の散布水量100ℓ区に比べ除草効果が劣った。処理時の雑草が2.5~4.0cmと小さく、薬剤の付着が不十分であったためと考えられる。
	田畑の別	水田転作	イネ科雑草3~5葉期 アゼガヤ4.5葉期(2.5cm)	薬剤/散布水量	%	%	%	%			・大豆への影響は見られない。
	土壌条件	沖積・軽塩土 (乾燥)	メヒシバ(4.8葉期(4cm)) ノビエ3葉期(3.5cm) 大豆2葉期(1.8cm)	75ml/50ℓ	39	12	7	22	無	B2	△
	播種日	H20/7/15		75ml/25ℓ	31	9	11	19	無	A2	△
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H20/7/28(+13)	散布液量 25ℓ区はラウンドノズル25 50ℓ区はラウンドノズル50 100ℓ区はTejet8002VS使用	100ml/25ℓ	25	7	6	14	無	A2	△
	調査日	H20/8/25(28日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	5	2	5	4	無		

平成21年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草】イネ科雑草3-5L(少水量散布：北海道) フルアジホップP17.5%

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評価点	判定	所見
				一年生イネ科		総計					
北海道立十勝農業試験場	品種	トヨハルカ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 46.0g		(100%) 46.0g	(96%) 303kg/10a			・遅効的であるが、いずれの薬量・水量とも3~5葉期のイヌビエに対する除草効果は高く、薬害も認められなかった。
	田畑の別	畑	ロロックス水和剤体系処理 (5/21 処理)150g/100ℓ	薬剤/散布水量	%		%				・薬量75ml、水量25~50ℓで実用化可能。
	土壌条件	乾性火山性土・壤土 (適湿)	茎葉処理 (少水量25~50ℓ/10a)	75ml/50ℓ	t		1	無	96	AO	◎
	播種日	H21/5/20	イヌビエ3~5葉期 大豆 本葉1.3葉期	75ml/25ℓ	0		0	無	99	AO	◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H21/6/26(+37)		100ml/25ℓ	0		0	無	96	AO	◎
	調査日	H21/7/14(18日後)		対)ワンサイドP乳剤 (6/26 処理)100ml/100ℓ	t		0	無	103		
北海道試験地 場内圃場	品種	ツルムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 1432.0g	メヒシバ 96.8g	(100%) 1528.8g	(81%) 229kg/10a			・各処理とも極大の除草効果が認められた。
	田畑の別	畑	(+3)ロロックス水和剤 100g/100ℓ前処理	薬剤/散布水量	%	%	%				・大豆に対する薬害は各処理とも認められなかった。
	土壌条件	黒ボク土・壇壤土 (乾燥)	全面茎葉処理 イヌビエ5葉期(1.9cm) メヒシバ(5cm) 大豆2葉期(1.6cm)	75ml/50ℓ	0	0	0	無	93	AO	◎
	播種日	H21/5/26		75ml/25ℓ	0	0	0	無	97	AO	◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H21/6/29(+34)		100ml/25ℓ	0	0	0	無	93	AO	◎
	調査日	H21/7/15(16日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	0	0	0	無	92		

委託試験結果概要(少水量)

だいす

平成20年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科雑草5-8L(少水量散布：全域)

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			葉害	収量 対完全除草区	総合 評点	判定	所見	
				一年生イネ科		総計						
北海道立千勝農業試験場	品種	トヨムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 398.0g		(100%) 398.0g	(73%) 373kg/10a			・遅効的であるが、いずれの薬量、水量とも6~8葉期のイヌビエに対する除草効果は高く、薬害も認められなかった。	
	田畑の別	畑	茎葉処理 (少水量25~50ℓ/10a)	薬剤/散布水量	%		%	%			・除草効果の年次変動を確認するための継続。	
	土壌条件	乾性火山性土・壤土 (適湿)	イヌビエ6~8葉期 大豆 4.2葉期	100ml/50ℓ	4		4	無	99	AO	○	
	播種日	H20/5/27		100ml/25ℓ	2		2	無	104	AO	○	
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H20/7/7(+41)		200ml/25ℓ	0		0	無	104	AO	○	
	調査日	H20/7/24(17日後)		対)ワンサイドP乳剤 (7/7 処理)100ml/100ℓ	3		3	無	99			
北海道試験地 場内圃場	品種	ツルムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 103.6g		(100%) 103.6g	(87%) 338kg/10a			・薬量200ml、散布水量25ℓ/10aでやや効果が認められたが、今後も薬量・水量など検討が必要である。	
	田畑の別	畑	(+3)ロロックス水和剤 100g/100ℓ前処理	薬剤/散布水量	%		%	%				
	土壌条件	黒ボク土・埴壌土 (乾燥)	全面茎葉処理 イネ科7葉期 大豆4葉期(23cm)	100ml/25ℓ	46		46	無	98	C2	△	
	播種日	H20/5/25		100ml/50ℓ	57		57	無	97	C2	△	
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H20/7/10(+46)		200ml/25ℓ	18		18	無	105	B2	△	
	調査日	H20/7/24(14日後)		対)Aフロアブル 300ml/100ℓ	0		0	無	104			
植調 古川試験地	品種	大豆(タンレイ)	処理方法・処理時の状況	無処置	メヒシバ 408.8g		(100%) 408.8g	(%) kg/10a			・メヒシバに茎葉処理効果は高い。 ・大豆に薬害はなし。	
	田畑の別	転換畑(10年)	全面茎葉処理 (水量:25~50ℓ/10a)	薬剤/散布水量	%		%	%			・イネ科雑草5~8葉期の茎葉処理剤として実用性が高く、25~50ℓ/10aの散布水量拡大可能。	
	土壌条件	転換土 (適湿)	メヒシバ~7.1葉期 大豆6.3葉期	100ml/50ℓ	2		2	無		AO	◎	
	播種日	H20/5/23		100ml/25ℓ	3		3	無		AO	◎	
	処理時期	畦間処理 H20/7/15(+48)		200ml/25ℓ	1		1	無		AO	◎	
	調査日	H20/8/11(27日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	3		3	無				
植調 福岡試験地	品種	フクユタカ	処理方法・処理時の状況	乾燥重量 無処置	アゼガヤ 105.7g	メヒシバ 100.7g	ノビエ 45.3g	(100%) 251.7g	(%) kg/10a		・少量での効果、薬害の確認のため試験を実施した。 ・対照の散布水量100ℓ区に比べて遜色ない結果が得られた。 ・大豆への影響は見られない。 ・少水量散布可能。 [イネ科雑草5~8葉期] 薬量100~200ml/10a 散布水量25~50ℓ/10a	
	田畑の別	水田転作	イネ科雑草5~8葉期 アゼガヤ7.2葉期(7cm)	薬剤/散布水量	%	%	%	%	%			
	土壌条件	沖積・軽塩土 (乾燥)	メヒシバ(6.8葉期(5cm)) ノビエ(5葉期(8cm)) 大豆4葉期(26cm)	100ml/50ℓ	5	2	0	3	無		AO	◎
	播種日	H20/7/15		100ml/25ℓ	7	3	0	4	無		AO	◎
	処理時期	イネ科雑草5~8葉期 H20/7/31(+16)	散布水量 25ℓ区はラウンドノズル25 50ℓ区はラウンドノズル50 100ℓ区はTeejet8002VS使用	200ml/25ℓ	7	2	0	4	無		AO	◎
	調査日	H20/8/25(25日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	4	1	0	2	無			

平成21年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 大豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草】イネ科雑草6-8L(少水量散布：北海道) フルアジホップP17.5%

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			葉害	収量 対完全除草区	総合 評点	判定	所見
				一年生イネ科		総計					
北海道立千勝農業試験場	品種	トヨ/リカ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	ノビエ 127.0g		(100%) 127.0g	(87%) 303kg/10a			・遅効的であるが、いずれの薬量、水量とも6~7葉期のイヌビエに対する除草効果は高く、薬害も認められなかった。
	田畑の別	畑	茎葉処理 (少水量25~50ℓ/10a)	薬剤/散布水量	%		%	%			・薬量100ml、水量25~50ℓで実用化可能。
	土壌条件	乾性火山性土・壤土 (適湿)	イヌビエ6~7葉期 大豆 3.8葉期	100ml/50ℓ	t		t	無	95	AO	◎
	播種日	H21/5/20		100ml/25ℓ	0		0	無	98	AO	◎
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H21/7/7(+48)		200ml/25ℓ	0		0	無	95	AO	◎
	調査日	H21/7/30(23日後)		対)ワンサイドP乳剤 (7/7 処理)100ml/100ℓ ロロックス水和剤体系処理 (5/21 処理)150g/100ℓ	0		0	無	95		
植調 北海道試験地 場内圃場	品種	ツルムスメ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 3462.8g	メヒシバ 84.7g	(100%) 3547.6g	(85%) 242kg/10a			・各処理とも極大の除草効果が認められた。
	田畑の別	畑	(+3)ロロックス水和剤 100g/100ℓ 前処理	薬剤/散布水量	%		%	%			・大豆に対する薬害は各処理とも認められなかった。
	土壌条件	黒ボク土・埴壌土 (湿)	全面茎葉処理 イヌビエ7葉期(49cm) メヒシバ(10cm) 大豆4葉期(23cm)	100ml/50ℓ	0	0	0	無	92	AO	◎
	播種日	H21/5/26		100ml/25ℓ	0	0	0	無	92	AO	◎
	処理時期	イネ科雑草6~8葉期 H21/7/11(+46)		200ml/25ℓ	0	0	0	無	92	AO	◎
	調査日	H21/7/24(13日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	0	0	0	無	94		

あすき

平成20年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 小豆 【適用性：新規：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科雑草3~5L(少水量散布：全域)

試験場所	試験条件			使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評価点	判定	所見	
					一年生イネ科		総計						
圃調 北海道試験地 場内圃場	品種	エリモリョウス	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 33.9g			(100%) 33.9g	(48%) 195kg/10a			・各処理区とも極大の除草効果があり、薬害も認められないため、薬量75~100ml、散布水量25~50ℓ/10aで実用化可能と考えられた。	
	田畑の別	畑	(+5)パワーガイザー液剤200ml/100ℓ前処理 全面茎葉処理 イネ科4葉期 小豆 本葉展開期	薬剤/散布水量	%			%	%				
	土壌条件	黒ボク土・壇壊土(乾燥)		75ml/25ℓ	6			6	無	105	A0		◎
	播種日	H20/5/28		75ml/50ℓ	0			0	無	104	A0		◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H20/6/26(+29)		100ml/25ℓ	0			0	無	111	A0		◎
	調査日	H20/7/7(11日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	t			t	無	100			
圃調 十勝試験地(新生)	品種	きたのおとめ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 1465g			(100%) 1465g	(88%) 301kg/10a			・各処理区とも極大の除草効果があり、薬量間差は無かった。 ・処理により大豆の生育や収量への影響は認められなかった。	
	田畑の別	畑	パワーガイザー液剤200ml前処理(6/4) 茎葉処理(水量25~50ℓ/10a) 小豆1.5葉期(12cm) イヌビエ5葉期	薬剤/散布水量	%			%	%				
	土壌条件	褐色火山性砂壤土(適湿)		75ml/25ℓ	t			t	無	94	A0		○
	播種日	H20/5/23		75ml/50ℓ	t			t	無	93	A0		○
	処理時期	イネ科3~5葉期 H20/6/30(+38)		100ml/25ℓ	0			0	無	105	A0		○
	調査日	H20/7/25(25日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	0			0	無	97			
圃調 青森試験地 圃場	品種	大納言	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 11.9g	メヒシバ 7.1g		(100%) 19.0g	(18%) 173kg/10a			・各処理区とも一年生イネ科雑草に対し、除草効果は高い。 ・生育、収量への影響は認められなかった。 ・実用化可能。	
	田畑の別	転換畑(昭和50年)	全面茎葉処理 イヌビエ3~5葉期 メヒシバ3~5葉期 小豆3~4葉期	薬剤/散布水量	%	%		%	%				
	土壌条件	火山灰砂壤土(過湿)		75ml/25ℓ	0	0		0	無	100	A0		◎
	播種日	H20/6/16		75ml/50ℓ	0	0		0	無	97	A0		◎
	処理時期	イネ科3~5葉期 H20/7/15(+29)		75ml/100ℓ	0	0		0	無	91	A0		◎
	調査日	H20/7/26(11日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	0	0		0	無	101	A0		◎
圃調 京都府丹波農業研究所	品種	京都大納言	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	ノビエ 131.0g	メヒシバ 33.5g		(100%) 164.5g	(70%) 158kg/10a			・8月中下旬の継続的な降雨による湿害によって小豆の生育が抑制傾向にあった。 ・一年生イネ科雑草への除草効果は実用上問題がないものと考えられるが、部分耕狭条密植栽培における年次変動の確認が必要である。	
	田畑の別	水田転換畑(初年目)	全面茎葉処理 (少量散布)ノズル装着加圧式噴霧器 小豆(10cm) ノビエ4葉期(10cm) メヒシバ4葉期(6cm)	薬剤/散布水量	%	%		%	%				
	土壌条件	沖積砂壤土(湿)		75ml/50ℓ	12	1		10	無	72	A0		○
	播種日	H20/8/1		75ml/25ℓ	20	0		16	無	56	A2		○
	処理時期	小豆生育期(初生葉期) H20/8/10(+9)		100ml/50ℓ	9	23		12	無	61	A2		○
	調査日	H20/9/2(23日後)		対)ワンサイドP乳剤 (+9処理)100ml/100ℓ	49	0		39	無	61			

平成21年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 小豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草】イネ科雑草3~5L(少水量散布：北海道)

試験場所	試験条件			使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)			薬害	収量 対完全除草区	総合 評価点	判定	所見	
					一年生イネ科		総計						
圃調 北海道試験地 借地	品種	エリモリョウス	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 231.6g	メヒシバ 762.0g		(100%) 993.6g	(48%) 172kg/10a			・各処理とも極大の除草効果があった。 ・小豆に対し各処理とも薬害は認められなかった。 ・各処理とも除草効果が認められ、薬害も認められないことから、薬量75~100ml、散布水量25~50ℓ/10aで実用化可能と考えられた。	
	田畑の別	畑	(+6)パワーガイザー液剤300ml/100ℓ前処理 全茎葉処理 イヌビエ5葉期(15cm) メヒシバ(6cm) 小豆1.5葉期(10cm)	薬剤/散布水量	%	%		%	%				
	土壌条件	黒ボク土・壇壊土(乾)		75ml/50ℓ	9	0		2	無	99	A0		◎
	播種日	H21/5/28		75ml/25ℓ	0	8		6	無	95	A0		◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H21/7/3(+36)		100ml/25ℓ	0	0		0	無	94	A0		◎
	調査日	H21/7/21(18日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	0	0		0	無	91			
圃調 十勝試験地(新生)	品種	きたのおとめ	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 171.0g			(100%) 171.0g	(97%) 480kg/10a			・各処理とも極大の除草効果があり、薬量間差は無かった。 ・処理により小豆の生育や収量への影響は認められず、薬量75~100ml/10a(水量25~50ℓ)で実用化が可能である。	
	田畑の別	畑	パワーガイザー液剤300ml前処理(5/29) 茎葉処理(水量25~50ℓ/10a) 小豆0.8葉期(4cm) イヌビエ4葉期(9cm)	薬剤/散布水量	%			%	%				
	土壌条件	褐色火山性砂壤土(湿)		75ml/25ℓ	t			t	無	101	A0		◎
	播種日	H21/5/21		75ml/50ℓ	t			t	無	99	A0		◎
	処理時期	イネ科3~5葉期 H21/6/25(+35)		100ml/25ℓ	t			t	無	102	A0		◎
	調査日	H21/7/14(19日後)		対)ワンサイドP乳剤 100ml/100ℓ	t			t	無	101			

委託試験結果概要(少水量)

いんげんまめ

平成20年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 菜豆 【適用性：新規：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科雑草3-5L(少水量散布：全域)

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)		薬害	収量 対完全除草区	総合 評価点	判定	所見	
				一年生イネ科	総計						
圃調 北海道試験地 場内圃場	品種	大正金時	生重量 無処置	イヌビエ 24.8g		(100%) 24.8g	(56%) 424kg/10a			・除草効果は高く薬害もなく、収量75~100㎖、散布水量25~50ℓ/10aで実用化可能と考えられた。	
	田畑の別	畑	薬剤/散布水量	%		%					
	土壌条件	黒ボク土・壇壊土(湿)	75㎖/25ℓ	5		5	無	108	AO		◎
	播種日	H20/6/4	75㎖/50ℓ	5		5	無	106	AO		◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H20/7/25(+51)	100㎖/25ℓ	2		2	無	104	AO		◎
	調査日	H20/8/8(14日後)	対)ワンスайдP乳剤 100㎖/100ℓ	6		6	無	104			
圃調 十勝試験地(新生)	品種	大正金時	生重量 無処置	イヌビエ 446.6g		(100%) 446.6g	(100%) 275kg/10a			・各処理とも極大の除草効果があり、収量間差は無かった。 ・処理により菜豆の生育や収量への影響は認められなかった。	
	田畑の別	畑	薬剤/散布水量	%		%					
	土壌条件	褐色火山性砂壤土(適湿)	75㎖/25ℓ	t		t	無	106	AO		○
	播種日	H20/5/21	75㎖/50ℓ	t		t	無	103	AO		○
	処理時期	イネ科3~5葉期 H20/6/27(+37)	100㎖/25ℓ	0		0	無	107	AO		○
	調査日	H20/7/25(28日後)	対)ワンスайдP乳剤 100㎖/100ℓ	0		0	無	101			
若千大学農学部FSC 場内圃場	品種	福白金時	生重量 無処置	ノビエ 140.8g		(100%) 140.8g	(%) 145kg/10a			・各薬量とも高い除草効果を認めた。ノビエ枯死までの期間は薬量75㎖では10日間、100㎖では8日間であった。 ・菜豆に対して薬害は認められなかった。	
	田畑の別	畑	薬剤/散布水量	%		%					
	土壌条件	火山灰(適湿)	75㎖/50ℓ	0		0	無	90	AO		◎
	播種日	H20/5/28	75㎖/25ℓ	0		0	無	86	AO		◎
	処理時期	ノビエ3~5葉期 H20/6/21(+23)	100㎖/25ℓ	0		0	無	95	AO		◎
	調査日	H20/7/1(10日後)	対)ワンスайдP乳剤 100㎖/100ℓ	0		0	無	96	AO		◎
圃調研究所 岡見圃場	品種	本金時	生重量 無処置	メヒシバ 32.1g	イヌビエ 12.4g	(100%) 44.5g	(%) 114kg/10a			・いずれの薬量においても一年生イネ科雑草はほとんどが枯死にいたり、少水量散布区は散布水量100ℓ/10a処理区と同程度の除草効果が確認された。 ・菜豆への影響はみられなかった。 ・イネ科雑草3~5葉期処理で一年生イネ科雑草を対象に薬量75~100㎖/10a(散布水量25~50ℓ/10a)で実用性がある。	
	田畑の別	畑	薬剤/散布水量	%	%	%					
	土壌条件	火山灰・軽壇土(適湿)	75㎖/50ℓ	4	t	3	無	103	AO		◎
	播種日	H20/4/30	75㎖/25ℓ	2	0	1	無	100	AO		◎
	処理時期	菜豆生育期 H20/5/28(+28)	100㎖/25ℓ	2	0	1	無	104	AO		◎
	調査日	H20/6/12(15日後)	対)ワンスайдP乳剤 100㎖/100ℓ	3	0	2	無	102			

平成21年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 菜豆 【適用性：継続：一年生イネ科雑草】イネ科雑草3-5L(少水量散布：北海道)

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)		薬害	収量 対完全除草区	総合 評価点	判定	所見	
				一年生イネ科	総計						
圃調 北海道試験地 借地	品種	福勝	生重量 無処置	イヌビエ 425.2g	メヒシバ 16.8g	(100%) 442.0g	(86%) 340kg/10a			・各処理とも極大の除草効果があった。 ・菜豆に対し各処理とも薬害は認められなかった。 ・各薬量とも除草効果が高く、薬害も認められないことから、薬量75~100㎖、散布水量25~50ℓ/10aで実用化可能と考えられた。	
	田畑の別	畑	薬剤/散布水量	%	%	%					
	土壌条件	黒ボク土・壇壊土(乾燥)	75㎖/50ℓ	1	0	1	無	92	AO		◎
	播種日	H21/6/4	75㎖/25ℓ	3	0	3	無	95	AO		◎
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H21/7/3(+29)	100㎖/25ℓ	0	0	0	無	108	AO		◎
	調査日	H21/7/21(18日後)	対)ワンスайдP乳剤 100㎖/100ℓ	0	0	0	無	101			
圃調 十勝試験地(新生)	品種	福勝	生重量 無処置	イヌビエ 118.9g		(100%) 118.9g	(98%) 362kg/10a			・各処理とも極大の除草効果があり、収量間差は無かった。 ・処理により菜豆の生育や収量への影響は認められず、薬量75~100㎖(水量25~50ℓ)で実用化が可能である。	
	田畑の別	畑	薬剤/散布水量	%		%					
	土壌条件	褐色火山性砂壤土(適湿)	75㎖/25ℓ	t		t	無	98	AO		◎
	播種日	H21/5/22	75㎖/50ℓ	t		t	無	96	AO		◎
	処理時期	イネ科3~5葉期 H21/6/25(+34)	100㎖/25ℓ	t		t	無	99	AO		◎
	調査日	H21/7/9(14日後)	対)ワンスайдP乳剤 100㎖/100ℓ	t		t	無	102			

委託試験結果概要

ばれいしょ

平成19年度 畑作関係除草剤試験成績概要

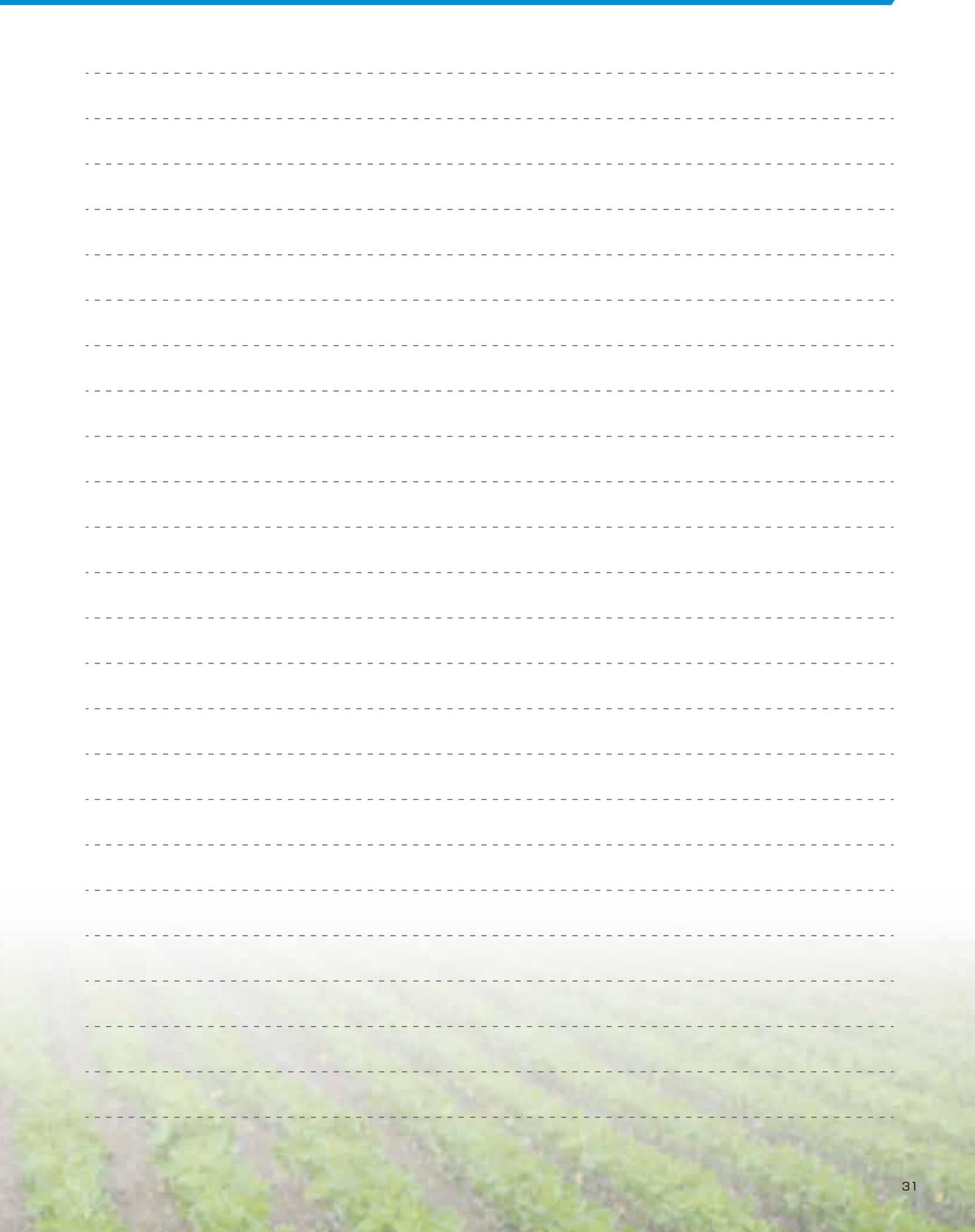
SL-236(L)乳 バレイショ 【適用性：新規：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】バレイショへの拡大

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)		薬害	収量 対完全除草区	総合 評点	判定	所見	
				一年生イネ科	総計						
北海道立十勝農業試験場	品種	男爵薯	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 8.4g	(100%) 8.4g	(100%) 3606kg/10a			・対象雑草に対する効果は極大~大であった。残った雑草は緑色であったが、生育は停止しており再生も見られなかった。	
	田畑の別	畑	茎葉処理(水量100ℓ/10a) バレイショ莖長(30cm) イヌビエ4~5葉期		%	%	%				
	土壌条件	乾性火山性土・壤土 (やや乾)		75mℓ	8	8	無	104	A0	○	・薬害は認められなかった。
	植付日	H19/5/9		100mℓ	14	14	無	105	A2	○	・効果確認のため継続。
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H19/6/19(+41)		対)B乳剤 150mℓ	7	7	無	96			
	調査日	H19/7/10(21日後)									
北海道立北見農業試験場	品種	とうや	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 434.1g	(100%) 434.1g	(96%) 4.239kg/10a			・各処理薬量において、イヌビエに対し極大の除草効果が得られた。	
	田畑の別	畑	全面茎葉処理 イヌビエ3~4葉期		%	%	%				
	土壌条件	黒ボク土・砂壤土 (適湿)		75mℓ	3	3	無	92	A0	○	・各処理薬量とも、薬害及び生育への影響は認められなかった。
	植付日	H19/5/17		100mℓ	2	2	無	91	A0	○	・次年度、除草効果及び薬害への再確認のため継続。
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 薬害:H19/7/2(+45) 薬効:H19/7/7(+51)		対)B乳剤 200mℓ	t	t	無	92			
	調査日	H19/7/30(23日後)									

平成20年度 畑作関係除草剤試験成績概要

SL-236(L)乳 バレイショ 【適用性：継続：一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)】イネ科雑草3~5L(北海道)

試験場所	試験条件		使用量 (製品) (/10a)	残草量(無除草区比)		薬害	収量 対完全除草区	総合 評点	判定	所見	
				一年生イネ科	総計						
北海道立十勝農業試験場 場内圃場	品種	男爵薯	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 10.8g	(100%) 10.8g	(98%) 4123kg/10a			・対象雑草による効果であった。	
	田畑の別	畑	茎葉処理(水量100ℓ/10a) バレイショ莖長(30cm) ヒエ3~4葉期		%	%	%			・薬害は認められなかった。	
	土壌条件	乾性火山性土・壤土 (やや乾)		75mℓ	1	1	無	95	A0	◎	・75~100mℓ/10aで美用化可能。
	植付日	H20/5/12		100mℓ	1	1	無	98	A0	◎	
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 H20/6/18(+37)		対)B乳剤 200mℓ	t	1	無	97			
	調査日	H20/7/7(19日後)									
北海道立北見農業試験場 場内圃場	品種	とうや	処理方法・処理時の状況	生重量 無処置	イヌビエ 96.4g	(100%) 96.4g	(108%) 3837kg/10a			・各処理薬量において、イヌビエに対し極大の除草効果が得られた。残ったイヌビエも葉の先端部の枯渇が進むなど生育は停止しており、最終的に枯死に至るものと考えられる。	
	田畑の別	畑	全面茎葉処理 イヌビエ3~4葉期 バレイショ莖長(59cm) バレイショ萌芽期:H20/6/9		%	%	%				
	土壌条件	火山性土・砂壤土 (適湿)		75mℓ	3	3	無	115	A0	◎	・各処理薬量とも、薬害及び生育への影響は認められなかった。収獲比率の差は、各試験区間の地力差、2反復日に4つ切り種いもを使用したことによる(通常は2つ切り)生育のばらつきが主要因であり、散布薬剤の影響ではないと考えられる。
	植付日	H20/5/19		100mℓ	0	0	無	125	A0	◎	・薬害調査における処理2日後の7月5日に52mmの降雨があったが、試験への影響はなかった。
	処理時期	イネ科雑草3~5葉期 薬害:H20/7/3(+45) 薬効:H20/7/30(+72)		対)B乳剤 200mℓ	0	0	無	125			・薬量75~100mℓ、散布水量100ℓ/10aで美用化可能。
	調査日	H20/8/18(19日後)									



●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2021年2月の知見に基づいて作成されています。

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階

☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp>

BASF-0225
202102